

達成度評価システムについて

【1】 達成度評価システムの概要	2
・ 達成度評価システムの特徴	3
・ 達成度評価システムの流れ	4
・ 課程修了までの達成度評価委員会関係スケジュール	5
【2】 達成度評価委員会について	6
・ 達成度評価委員会開催概要（前期課程用）	7
・ 達成度評価委員会開催概要（後期課程用）	9
・ TWINS『個人成績参照ページ』出力例	11
・ 達成度評価記録用紙	12
・ 達成度評価委員会手続きフロー	13
【3】 学生ポートフォリオサンプル	14
・ 学生ポートフォリオサンプル	15
【4】 達成度評価シート（自己評価書）サンプル	17
・ 博士前期課程	
・ 環境・エネルギーリスク分野	18
・ トータルリスクマネジメント分野	20
・ サイバーリスク分野	22
・ 都市リスク分野	24
・ 博士後期課程	26
【5】 「達成度評価資料」について	28
・ 「達成度評価資料」ファイルの入力方法（前期課程用）	29
・ 「ポイント付与申請」手続きフロー	32
・ 大学院・研究科共通科目ポイント表（博士前期課程用）	33
・ 他専攻・他研究科等の科目履修に係るポイント付与申請書・専攻開設科目ポイント表・ グラフの分野別サンプル（博士前期課程用）	
・ 環境・エネルギーリスク分野	34
・ トータルリスクマネジメント分野	37
・ サイバーリスク分野	40
・ 都市リスク分野	43
【6】 達成度評価システムの基本的理念	46
・ <u>博士前期課程</u> における達成度評価に関する申合せ	47
・ <u>博士後期課程</u> における達成度評価に関する申合せ	49
・ 自己評価書における達成度評価基準	51
・ リスク工学の教育目標と履修の方法	52
・ リスク工学専攻オリエンテーション達成度評価説明資料（博士前期課程用）	59
・ リスク工学専攻オリエンテーション達成度評価説明資料（博士後期課程用）	61

1 達成度評価システムの概要

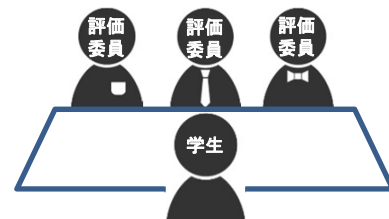
達成度評価システムの特徴

リスク工学専攻では、2008年度から専攻における教育目標の「達成度評価」を実施することになりました。達成度評価システムは、専攻の教育目標と、大学院における一般的な教育目標(別紙に述べる6項目)を同時に満足させる教育プロセスの評価システムです。以下に述べるように、各自の学修の進捗度チェックに非常に役に立つものですので、このシステムを上手に活用し、有意義な大学院生活としてください。

《特徴1》達成度評価委員会(年2回開催)

達成度評価委員会開催概要→P7

- 複数教員による指導
- 達成度評価シート等の作成により、普段の学修状況を客観的に振り返り、目標に向かって着実に進むことが出来る。
- 評価結果のフィードバックにより、細やかな指導を実現！



《特徴2》学生ポートフォリオ(毎月提出)・エビデンス

学生ポートフォリオサンプル→P15

- 毎月の学修状況の要約である学生ポートフォリオを作成し、各自保管する。
- 達成度評価委員会時に提出する「達成度評価シート」は、この学生ポートフォリオを参照しながら作成し、必要に応じてエビデンスも保管する。
- 学修エビデンス…学修課程において作成した資料。例えば、特別研究やグループ演習・インターンシップ等において作成した学修ノート、研究室のゼミのための研究レポート、学会や研究会のために準備した論文原稿など。これらの資料は、次に述べる「達成度評価シート(自己評価書)」の裏付けとして提出を求められることがあるので、各自保存しておくこと。

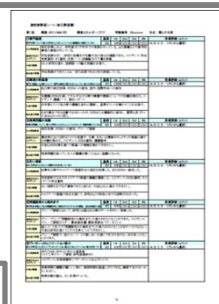


《特徴3》達成度評価シート(自己評価書)の作成

達成度評価シートサンプル→P21

- 達成度評価委員会の前に、「達成度評価シート(自己評価書)」を各自作成することにより、自己目標への進捗状況を確認できる。
- ①専門基礎、②関連分野基礎、③現実問題の知識、④広い視野、⑤問題設定から解決まで、⑥プレゼン・コミュニケーション能力、⑦国際的通用性、⑧学術的成果の8項目について、自己を見つめ直すことができる。
- 学修状況をアピールする練習となり、社会人として必要な自己PR能力を身につけることができる。

サンプル: 環エネ→P23、トータル→P25、サイバー→P27、都市→P29、後期→P31



《特徴4》ポイントによる履修チェック(博士前期課程学生のみ)

「達成度評価資料」入力方法→P33

- 単位取得により、科目ごとに設定されたポイントが加算される。
- 成績がAの場合、定められたポイント×1.2、Bの場合×1.0、Cの場合×0.8として計算される。
- ポイントをバランスよく獲得するように履修することにより、興味のみ偏った履修を防ぐことが出来る。

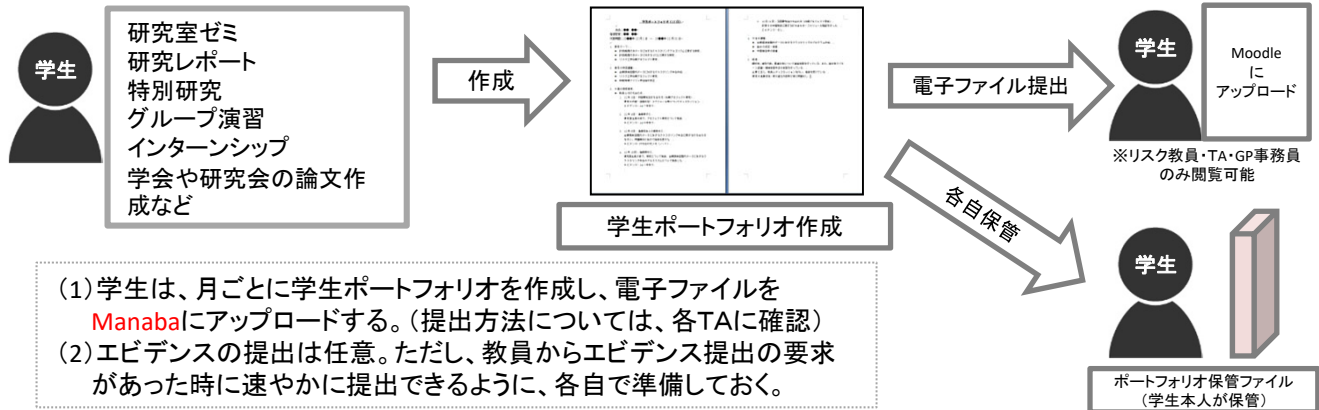
大学院・研究科共通科目ポイント表→P38
他専攻・他研究科等の科目履修に係るポイント付与申請書・
専攻開設科目ポイント表・グラフサンプル:
環エネ→P45、トータル→P48、都市→P51、サイバー→P54

The image displays three sample spreadsheets. The first is a point table for common courses. The second is a spreadsheet for point allocation for other departments. The third is a graph sample showing course selection and point accumulation.

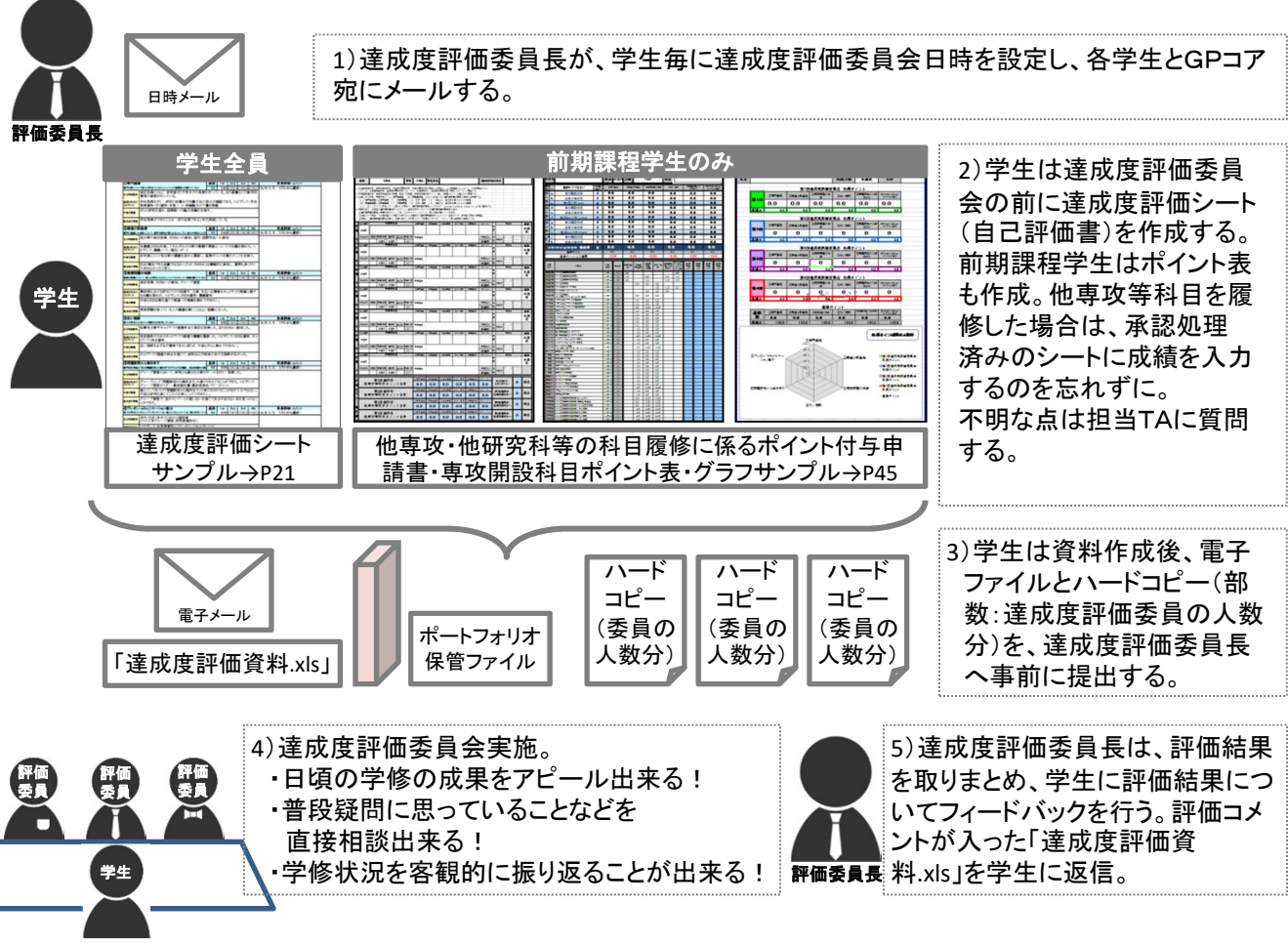
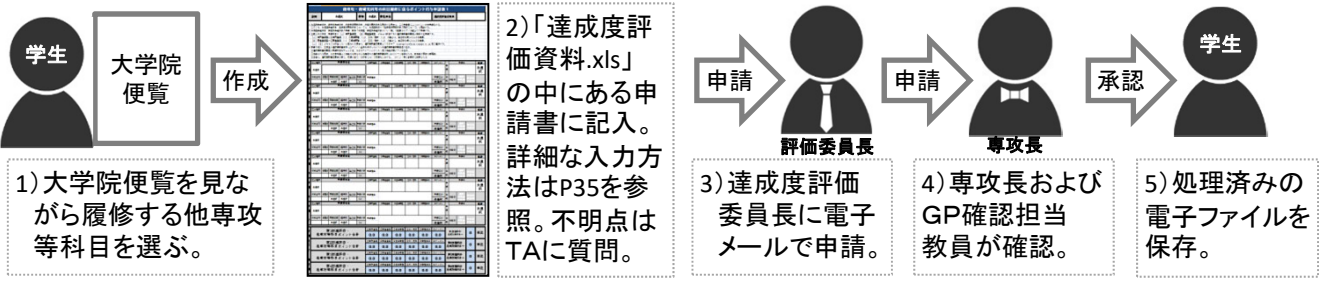
《達成度評価システムの基本的理念》

- 1) 博士前期課程における達成度評価に関する申合せ→P59
- 2) 博士後期課程における達成度評価に関する申合せ→P61
- 3) 自己評価書における達成度評価基準→P63
- 4) リスク工学の教育目標と履修の方法→P64
- 5) (参考)リスク工学専攻オリエンテーション達成度評価説明資料(博士前期課程用)→P71
- 6) (参考)リスク工学専攻オリエンテーション達成度評価説明資料(博士後期課程用)→P73

達成度評価システムの流れ



- (1) 学生は、月ごとに学生ポートフォリオを作成し、電子ファイルを **Manaba** にアップロードする。(提出方法については、各TAに確認)
- (2) エビデンスの提出は任意。ただし、教員からエビデンス提出の要求があった時に速やかに提出できるように、各自で準備しておく。



本年度のスケジュールは、決まり次第メールで周知致します。

博士前期課程学生		共通	博士後期課程学生		
達成度評価委員会実施期間	他専攻・他研究科科目履修に係るポイント付与申請期間	提出	達成度評価委員会実施期間		
実施についての詳細	申請方法詳細		実施についての詳細		
4月	↑ 春Aモジュール ↓ 4月上旬～中旬	毎月十日までに学生ポートフォリオの電子ファイルを Moodle にアップロード(八・九月分と十二月・一月分はまとめて提出でも可)		4月	
5月	↑ 春Bモジュール ↓ 5月中旬～下旬			5月	
6月	↑ 春Cモジュール ↓ 6月下旬			6月	
7月				7月	
8月				8月	
9月				9月	
10月	↑ 秋Aモジュール ↓ 10月上旬			↑ 第1回達成度評価委員会 10月1日前後から約1ヶ月間	10月
11月	↑ 秋Bモジュール ↓ 11月上旬				11月
12月					12月
1月	↑ 秋Cモジュール ↓ 1月上旬				1月
2月					2月
3月				↑ 第2回達成度評価委員会 2月下旬から3月末	3月
4月	↑ 春Aモジュール ↓ 4月上旬～中旬				4月
5月	↑ 春Bモジュール ↓ 5月中旬～下旬				5月
6月	↑ 春Cモジュール ↓ 6月下旬				6月
7月					7月
8月					8月
9月					9月
10月	↑ 秋Aモジュール ↓ 10月上旬			↑ 第3回達成度評価委員会 10月1日から約1ヶ月間	10月
11月	↑ 秋Bモジュール ↓ 11月上旬				11月
12月					12月
1月	↑ 秋Cモジュール ↓ 1月上旬				1月
2月				↑ 第4回達成度評価委員会 公開発表に先んじて (1月下旬～2月上旬)	2月
3月				↑ 第4回達成度評価委員会 2月下旬から3月末	3月
				4月	
				5月	
				6月	
				7月	
				8月	
			↑ 第5回達成度評価委員会 予備審査に先んじて (11月下旬まで)	9月	
				10月	
				11月	
				12月	
			↑ 第6回達成度評価委員会 公開発表に先んじて (1月下旬～2月上旬)	1月	
				2月	

2 達成度委員会について

達成度評価委員会開催概要（前期課程用）

1. 開催時期の連絡

達成度評価委員長

- 1) 各学生の達成度評価委員会の開催日時は達成度評価委員長が決め、学生と他の達成度評価委員に連絡する。
(GPコアメーリングリスト risk-gp-core@risk.tsukuba.ac.jp にも必ず連絡する。)

2. 学生の準備

学生

- 1) TWINS から『個人成績参照』ページを出力する。
 - ・科目等履修生として、大学院入学前に大学院の科目を履修した学生は、その科目についても合否だけでなく成績が出ているものを準備すること。
- 2) 「達成度評価資料」ファイルに入力し、達成度評価委員長に電子ファイルをメールで事前に提出する。入力方法は別紙参照。
- 3) 次の表のように資料を準備し、事前に達成度評価委員長に提出する。

資料名	部数
TWINS『個人成績参照』ページ	1部
学生ポートフォリオ・エビデンスファイル	一式
達成度評価シート（自己評価書）	達成度評価委員の人数分
専攻開設科目ポイント表	達成度評価委員の人数分
グラフ	達成度評価委員の人数分
他専攻・他研究科等の科目履修に係るポイント付与申請書	達成度評価委員の人数分

3. 評価の前に ※前期課程学生の評価の場合のみ

達成度評価委員長

- 1) 達成度評価委員長は、学生から提出された資料の「成績」欄が正しく入力されているか確認する。

4. 達成度評価委員会開催

達成度評価委員・学生

- 1) 原則、達成度評価委員長と委員長以外の委員（2～3名）、学生との、面談方式で行う。修了直前の最終達成度評価委員会は、メールでの開催も可とする。ただし、達成度評価記録への署名は必要。
- 2) 評価の基準については、オリエンテーション資料中の『自己評価書における達成度評価基準』を参照する。
- 3) 各評価委員は、「達成度評価資料」ファイルの該当の「達成度評価シート（自己評価書）」に、委員コメントを記入する。この際、項目名下の（A～B：委員氏名）に氏名を入力する。評価シートは2枚・3枚になっても構わないので、行の大きさを適宜調整する。
なお、印刷時に内容が全て印刷されていることを確認すること。
- 4) 達成度評価委員長は、他の委員と協議し、「教員評価」欄を記入する。
- 5) 達成度評価委員長は、「達成度評価記録」を作成し、評価委員全員に署名を求める。

5. 資料の提出

達成度評価委員長

- 1) 達成度評価委員会終了後、達成度評価委員長は各委員の評価コメントを「達成度評価資料」ファイルにとりまとめ、次の表のように資料を速やかに提出・保存する。

資料名	部数	提出先・保存先
TWINS『個人成績参照』ページ	1部	提出ボックス（教員メールボックス室内）
達成度評価シート（自己評価書） ※評価・委員コメント記入済みのもの	1部	提出ボックス（教員メールボックス室内）
専攻開設科目ポイント表	1部	提出ボックス（教員メールボックス室内）
グラフ	1部	提出ボックス（教員メールボックス室内）
他専攻・他研究科等の科目履修に係るポイント付与申請書（申請があった場合のみ）	1部	提出ボックス（教員メールボックス室内）
達成度評価記録（署名済み）	1部	提出ボックス（教員メールボックス室内）
「達成度評価資料」ファイル ※評価・委員コメント記入済みのもの		Excel ファイルごと GP サーバに保存 Excel ファイルごと学生に返信し、評価についてフィードバックを行う

6. 問い合わせ

- 1) 資料作成についての質問 → 各分野のTA、またはTAメーリングリストへ
(risk-gp-ta@risk.tsukuba.ac.jp)
- 2) 達成度評価委員会全体についての質問 → GP コアメーリングリストへ
(risk-gp-core@risk.tsukuba.ac.jp)

以上

達成度評価委員会開催概要（後期課程用）

1. 開催時期の連絡

達成度評価委員長

- 1) 各学生の達成度評価委員会の開催日時は達成度評価委員長が決め、学生と他の達成度評価委員に連絡する。
(G P コアメーリングリスト risk-gp-core@risk.tsukuba.ac.jp にも必ず連絡する。)

2. 学生の準備

学生

- 1) TWINS から『個人成績参照』ページを出力する。
 - ・科目等履修生として、大学院入学前に大学院の科目を履修した学生は、その科目についても合否だけでなく成績が出ているものを準備すること。
- 2) 「達成度評価資料」ファイルに入力し、達成度評価委員長に電子ファイルをメールで事前に提出する。入力方法は別紙参照。
- 3) 次の表のように資料を準備し、事前に達成度評価委員長に提出する。

資料名	部数
学生ポートフォリオ・エビデンスファイル	一式
達成度評価シート（自己評価書）	達成度評価委員の人数分

3. 達成度評価委員会開催

達成度評価委員・学生

- 1) 原則、達成度評価委員長と委員長以外の委員（2～3名）、学生との、面談方式で行う。修了直前の最終達成度評価委員会は、メールでの開催も可とする。ただし、達成度評価記録への署名は必要。
- 2) 評価の基準については、オリエンテーション資料中の『自己評価書における達成度評価基準』を参照する。
- 3) 各評価委員は、「達成度評価資料」ファイルの該当の「達成度評価シート（自己評価書）」に、委員コメントを記入する。この際、項目名下の（A～B：委員氏名）に氏名を入力する。評価シートは2枚・3枚になっても構わないので、行の大きさを適宜調整する。
なお、印刷時に内容が全て印刷されていることを確認すること。
- 4) 達成度評価委員長は、他の委員と協議し、「教員評価」欄を記入する。
- 5) 達成度評価委員長は、「達成度評価記録」を作成し、評価委員全員に署名を求める。

4. 資料の提出

達成度評価委員長

- 1) 達成度評価委員会終了後、達成度評価委員長は各委員の評価コメントを「達成度評価資料」ファイルにとりまとめ、次の表のように資料を速やかに提出・保存する。

資料名	部数	提出先・保存先
達成度評価シート（自己評価書） ※評価・委員コメント記入済みのもの	1部	提出ボックス（教員メールボックス室内）
達成度評価記録（署名済み）	1部	提出ボックス（教員メールボックス室内）
「達成度評価資料.xls」 ※評価・委員コメント記入済みのもの		Excel ファイルごと GP サーバに保存
		Excel ファイルごと学生に返信し、評価についてフィードバックを行う

5. 問い合わせ

- 1) 資料作成についての質問 → 各分野のTA、またはTAメーリングリストへ
(risk-gp-ta@risk.tsukuba.ac.jp)
- 2) 達成度評価委員会全体についての質問 → GP コアメーリングリストへ
(risk-gp-core@risk.tsukuba.ac.jp)

以上

所属システム情報工学研究科（博士前期課程）リスク工学専攻

学籍番号 xxxxxxxx

氏名 xxxxxxxx

年度 20xx 年度

No	科目区分	科目番号	科目名	教員名	認定 年度	1学 期	2学 期	3学 期	総合 評価	合 否
1	A1：基礎科 目	01CB213	ソフトデータ解析	佐藤 美 佳	20xx				B	合
2	A1：基礎科 目	01CF011	リスク工学前期特別演習	糸井川 栄一	20xx				A	合
3	A1：基礎科 目	01CF012	リスク工学前期特別研究 I	糸井川 栄一	20xx				A	合
4	A1：基礎科 目	01CF014	リスク工学概論	糸井川 栄一	20xx				A	合
5	A1：基礎科 目	01CF015	リスク工学グループ演習	糸井川 栄一	20xx				A	合
6	A1：基礎科 目	01CF101	ソフトコンピューティン グ基礎論I	宮本 定 明	20xx				A	合
7	A1：基礎科 目	01CF102	ソフトコンピューティン グ基礎論II	遠藤 靖 典	20xx				A	合
8	A1：基礎科 目	01CF104	確率システム論	金野 秀 敏	20xx	B			A	合
9	A1：基礎科 目	01CF106	システム信頼性特論	稲垣 敏 之	20xx				A	合
10	A1：基礎科 目	01CF401	エネルギーリスク評価論	内山 洋 司	20xx				B	合
11	A1：基礎科 目	01CF403	エネルギー安全工学特論	羽田野 祐子	20xx				A	合
12	A1：基礎科 目	01CF404	エネルギーリスク解析演 習	羽田野 祐子	20xx				A	合
13	D1：専門科 目	01CF901	リスク工学前期特別講義 I	非常勤講 師等	20xx				B	合
14	A1：基礎科 目	01CM323	環境流体工学特論	白川 直 樹	20xx				B	合
15	B1：共通基 礎科目	01ZZ005	企業と技術者の倫理	掛谷 英 紀	20xx				C	合

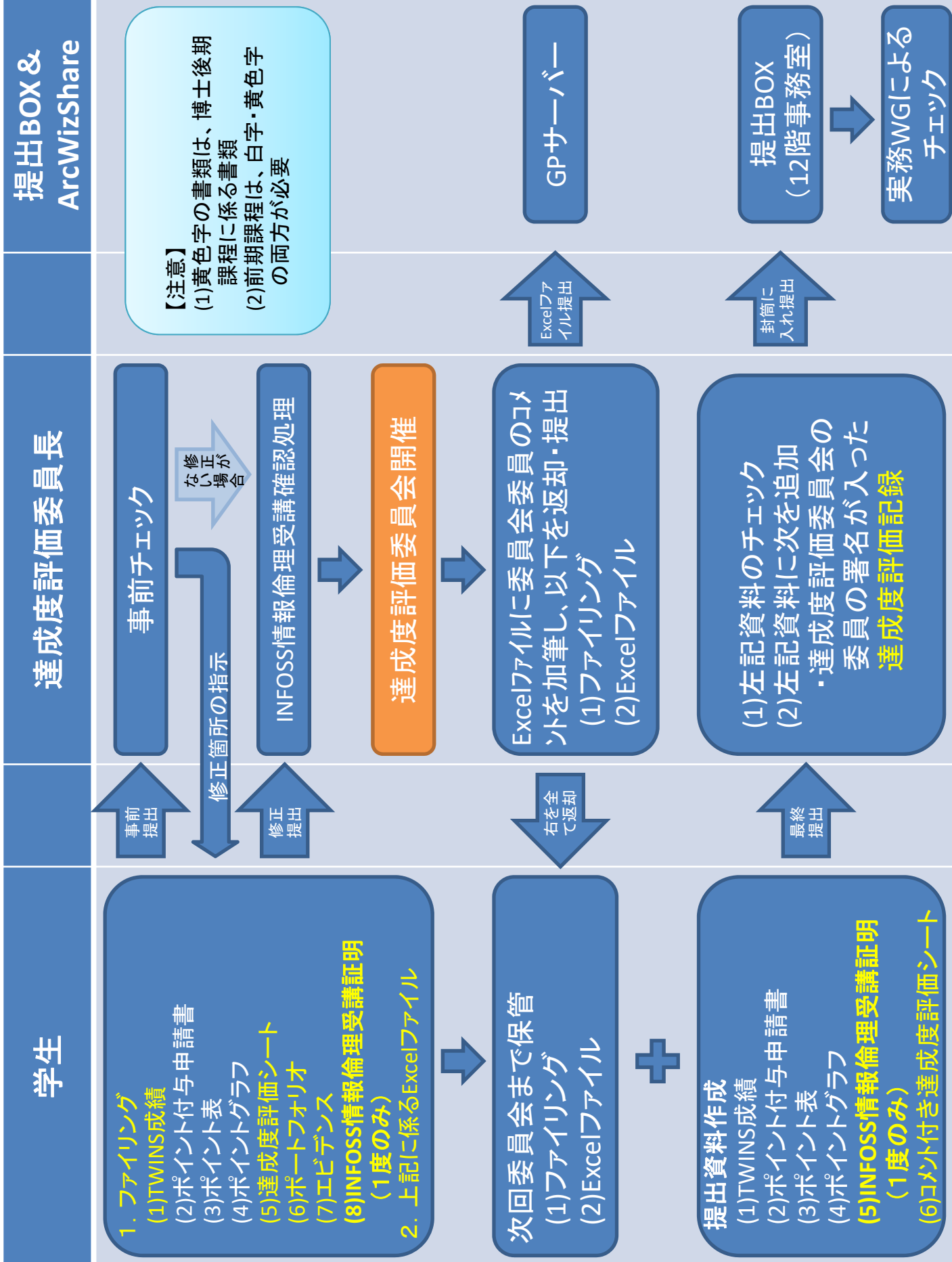
第 回 リスク工学専攻 達成度評価委員会 達成度評価記録

筑波大学大学院システム情報工学研究科リスク工学 専攻

学生氏名	
評価日時	
場所	
評価結果	別紙のとおり

	署名欄
達成度評価委員長	
達成度評価委員	
達成度評価委員	
達成度評価委員	

通信欄 : 達成度評価システムについて、ご意見・ご要望などございましたらご記入下さい。



3 ポートフォリオサンプル

学生ポートフォリオ (20xx 年 xx 月分)

学籍番号：

氏名：

指導教員：

研究テーマ： _____

自身の研究テーマについて、社会的背景を明らかにし、そのテーマの意義について 200 字程度で簡潔に他分野でも分かり易く記述してください。(2 回目以降、変更がある場合分かるようにしてください) [※枠の大きさ変更不可、フォントサイズは 10.5point 以上]

--

卒業までの達成度評価項目に関する目標設定

修士あるいは博士課程を卒業までに、達成したい目標について簡潔に、各項目について記述してください。(2 回目以降、変更がある場合分かるようにしてください)

達成度評価項目	目標
① 専門基礎: 専門分野について、修士あるいは博士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を有しているか。	
② 関連分野基礎: 専門に関連した分野について、専門分野ほど深くはないとしても、修士あるいは博士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を有しているか。	
③ 現実問題の知識: 現実の問題について、修士あるいは博士の学位にふさわしいレベルのセンス・見識を備えているか。	
④ 広い視野: 修士あるいは博士の学位にふさわしい視野の広さを有しているか。	
⑤ 問題設定から解決まで: 専門的応用能力である問題設定から解決までのプロセスを理解し、具体的解決に導くことができるか。	
⑥ プレゼン・コミュニケーション能力: 修士あるいは博士の学位にふさわしいプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有しているか。	
⑦ 国際的通用性: 専門分野において国際的に通用する学識を備えているか。	
⑧ 学術的成果: 修士あるいは博士の学位を授与してよいと判定できる学術的成果を有しているか。	

現在の研究、授業、課外活動等の課題とその理由

研究、授業、課外活動等の課題を理由とともに列挙してください。(足りない場合は適宜追加)

なお、達成度評価項目および研究、授業等該当項目をラベルとして付与してください。

課題 1 _____

理由

課題 2 _____

理由

課題 3 _____

理由

当月における課題の進捗および実施事項

上記課題および当月行った事項について、対応づけて列挙してください。(足りない場合は適宜追加)

進捗 1

進捗 2

進捗 3

進捗 4

今月の自己評価

他人と共有することを念頭に、フィードバックを貰いたい内容を意識して理由とともに記述してください。また達成度評価項目および研究、授業等該当項目をラベルとして付与してください。(枠の大きさ変更は自由) (特定事項のみ、あるいは総評として記載しても可能)

特徴、ポジティブな評価ができる、良かった点

反省点・改善点

来月に向けての課題、計画

今月を踏まえ研究、授業、課外活動等の課題と来月の計画を理由とともに列挙してください。(足りない場合は適宜追加)

なお、達成度評価項目および研究、授業等該当項目をラベルとして付与してください。

課題 1 _____

理由

課題 2 _____

理由

課題 3 _____

理由

4 達成度評価シート(自己評価書)サンプル

★ INFOSS情報倫理の受講の有無も入力してください

達成度評価シート(自己評価書)

第1回 開催:20YY/MM/DD 環境エネルギーリスク 学籍番号: 20xxxxxxx 氏名: 環エネ太郎

①専門基礎		基準	1st	2nd	3rd	4th	教員評価・コメント
専門分野について修士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を備えているか		8.0	3.80	—	—	—	(A, B, C, D : リストから選択)
主な学修事項	単位取得とともに、研究室ゼミや学外での発表を行っている。また微積などの数学的事項の復習を行っている。						
進捗状況及びエビデンス	学会発表を行い、研究の改善点や知識不足の部分が確認できた。エビデンス:学会発表資料・ゼミ資料・自習ノート・投稿論文の下書き原稿						
今後の課題	さらに研究を進め、国際誌への論文投稿を目指す。						
総合自己評価	学会発表ができたことは一定の成果であると自己評価している。						
②関連分野基礎		基準	1st	2nd	3rd	4th	教員評価・コメント
専門に関連した分野について、専門分野ほど深くはないとしても、修士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を備えているか		5.0	2.60	—	—	—	(A, B, C, D : リストから選択)
主な学修事項	他分野の単位取得、RERMへの参加、国内・国際学会への参加						
進捗状況及びエビデンス	各講義,RERMを通してそれぞれの分野の課題や概要についての知識を深めた。エビデンス:講義ノート、提出レポート						
今後の課題	次年度にリスク他分野の講義を多めに履修し、基準ポイントを満たすことを目指す。						
総合自己評価	あまり満足できる成績ではなかったが、RERMには積極的に参加し、質問も多く行った点はよかったと思う。						
③現実問題の知識		基準	1st	2nd	3rd	4th	教員評価・コメント
現実の問題について、修士の学位にふさわしいレベルのセンス・見識を備えているか		6.0	3.30	—	—	—	(A, B, C, D : リストから選択)
主な学修事項	単位取得、RERMへの参加、グループ演習						
進捗状況及びエビデンス	事故時における防災リスクの低減や、災害、あるいは情報セキュリティの現場に関する知識を深めた。エビデンス:RERM資料、講義資料						
今後の課題	今後もRERM等を通じて現場への理解を深めて行きたい。						
総合自己評価	現実問題を扱っている人の講義を聞くことはよい経験になった。						
④広い視野		基準	1st	2nd	3rd	4th	教員評価・コメント
修士の学位にふさわしい視野の広さを有しているか		6.0	4.50	—	—	—	(A, B, C, D : リストから選択)
主な学修事項	他専攻分野やキャリアパス関連科目の単位を取得した。またRERMへ参加した。						
進捗状況及びエビデンス	将来設計のためのキャリアパス関連の講義を履修した。エビデンス:RERM資料、キャリアパス科目資料						
今後の課題	広い視野をますます獲得できたと思うが、今後もさらに高めて行きたい。						
総合自己評価	キャリアパス関連の科目を通じて、研究および将来に対する視野が広がった。						
⑤問題設定から解決まで		基準	1st	2nd	3rd	4th	教員評価・コメント
専門的応用能力である問題設定から解決までのプロセスを理解し、具体的解決に導く		4.0	0.00	—	—	—	(A, B, C, D : リストから選択)
主な学修事項	グループ演習において、研究とは異なる分野のテーマを行い、発表した。						
進捗状況及びエビデンス	グループとして「問題設定から解決まで」の道のりをたどることができた。エビデンス:グループ演習ポスター・最終報告書・最終発表会パワーポイント						
今後の課題	個人として自力で「問題設定から解決まで」の実力を付けることがまだ十分ではない。今後は研究を通じてこの力を身につけて行きたい。						
総合自己評価	グループ演習で、他のメンバーとの話し合いを通じて自分の足りない点を見つけることができた。						
⑥プレゼン・コミュニケーション能力		基準	1st	2nd	3rd	4th	教員評価・コメント
修士の学位にふさわしいプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有しているか		6.0	0.00	—	—	—	(A, B, C, D : リストから選択)
主な学修事項	学内で2件・学外で1件の口頭発表 リスク工学グループ演習・研究室週例ゼミ						
進捗状況及びエビデンス	エビデンス:各発表資料(パワーポイントおよびレジメ)						
今後の課題	発表時間の調整が難しい。特に、制限時間を超過しがちである。練習不足のせいかもしれない。						
総合自己評価	発表回数を重ね、少し自信がついた。						

達成度評価シート(自己評価書)

第1回 開催: 20YY/MM/DD 環境エネルギーリスク 学籍番号: 20xxxxxxx 氏名: 環エネ太郎

⑦国際的通用性 専門分野において国際的に通用する学識を備えているか		教員コメント
主な学修事項	ICOPE09で英語口頭発表	
進捗状況及びエビデンス	ICOPE09発表概要集	
今後の課題	論文発表はできたが、質疑応答に力不足を感じた。 英語力向上のためTOEIC受験を予定している。	
総合自己評価	英語で口頭発表を経験したことにより、自信がついた。	
⑧学術的成果 修士の学位を授与してよいと判定できる学術的成果を有しているか		教員コメント
主な学修事項	ICOPE09で発表 JSER-W09で発表	
進捗状況及びエビデンス	ICOPE09論文 JSER-W09論文	
今後の課題	論文の投稿件数をもう少し増やしたい。できればISI Impact Factor 3程度の国際雑誌を目指したい。	
総合自己評価	2件の国際学会での発表はまずまずの学術的成果の帰結であると考えている。	
教員総合所見		

- ① 専門分野について修士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を備えているか
- ② 専門に関連した分野について、専門分野ほど深くはないとしても、修士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を備えているか
- ③ 現実の問題について、修士の学位にふさわしいレベルのセンス・見識を備えているか
- ④ 修士の学位にふさわしい視野の広さを有しているか
- ⑤ 専門的応用能力である問題設定から解決までのプロセスを理解し、具体的解決に導くことができるか
- ⑥ 修士の学位にふさわしいプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有しているか
- ⑦ 専門分野において国際的に通用する学識を備えているか
- ⑧ 修士の学位を授与してよいと判定できる学術的成果を有しているか

達成度評価シート(自己評価書)

第1回 開催:20YY/MM/DD トータルリスク 学籍番号: 20xxxxxxx 氏名: 松本トータル

①専門基礎		基準	1st	2nd	3rd	4th	教員評価・コメント
専門分野について修士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を備えているか		8.0	8.20	—	—	—	(A, B, C, D : リストから選択)
主な学修事項	研究テーマを進め、FSS2014およびMDAI2014で口頭発表を行った。SC基礎論I, II, リスク認知論の単位を取得した。						
進捗状況及びエビデンス	国内シンポおよび国際学会で発表を行った。ポイントが基準値を超えた。エビデンス:学会発表資料・ゼミ資料・自習ノート						
今後の課題	主分野の単位を取得する。						
総合自己評価	学会発表ができたこと、および基準ポイントに達したことは一定の成果であると自己評価している。						
②関連分野基礎		基準	1st	2nd	3rd	4th	教員評価・コメント
専門に関連した分野について、専門分野ほど深くはないとしても、修士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を備えているか		5.0	2.60	—	—	—	(A, B, C, D : リストから選択)
主な学修事項	リスク工学概論、宇宙エネ資源論、パターン認識特論の単位取得、RERMへの参加、国内・国際学会への参加						
進捗状況及びエビデンス	各講義,RERMを通してそれぞれの分野の課題や概要についての知識を深めた。エビデンス:講義ノート、提出レポート						
今後の課題	今後は他専攻科目について履修を行う。						
総合自己評価	関連分野の基礎については、成績はすべてAまたはA+であった。						
③現実問題の知識		基準	1st	2nd	3rd	4th	教員評価・コメント
現実の問題について、修士の学位にふさわしいレベルのセンス・見識を備えているか		6.0	3.30	—	—	—	(A, B, C, D : リストから選択)
主な学修事項	リスク工学概論、宇宙エネ資源論、パターン認識特論の単位取得、RERMへの参加、グループ演習により現実問題に対する知識を深めた。						
進捗状況及びエビデンス	大規模な停電や事故時におけるリスクの低減に関し、実際にどのような活動が行われているのか現場に関する知識を深めた。エビデンス:RERM資料、講義資料						
今後の課題	今後もRERMへの参加を継続的に行う。						
総合自己評価	RERM等を通じて一定の現実問題の知識を修得できたと考えている。ただし、このような知識は常に変動しているものであり、今後も継続的に参加し、学修を深めたい。						
④広い視野		基準	1st	2nd	3rd	4th	教員評価・コメント
修士の学位にふさわしい視野の広さを有しているか		6.0	4.50	—	—	—	(A, B, C, D : リストから選択)
主な学修事項	リスク工学概論、宇宙エネ資源論、パターン認識特論で合計8単位修得した。RERMに8回参加した。グループ演習にて最終報告書作成および口頭発表を行った。						
進捗状況及びエビデンス	グループ演習を通じて研究テーマ以外の事項にも興味を持てるようになった。エビデンス:RERM資料、グループ演習パワポ、最終報告書						
今後の課題	研究テーマ以外にもアンテナを張り、リスク工学的なアプローチについて考えて行きたい。						
総合自己評価	学部4年のときから比較すると、修士に入ってから研究に対する視野および将来に対する視野が大きく広がった。						
⑤問題設定から解決まで		基準	1st	2nd	3rd	4th	教員評価・コメント
専門的応用能力である問題設定から解決までのプロセスを理解し、具体的解決に導くことができるか		4.0	0.00	—	—	—	(A, B, C, D : リストから選択)
主な学修事項	グループ演習において、最終報告書作成および最終発表を行った。また、日本リスク研究会にてグループ演習の内容を発表した。						
進捗状況及びエビデンス	グループの中でテーマ選択・問題設定・調査分析を行い、一定の成果を出せた。エビデンス:グループ演習ポスター・最終報告書・最終発表会ppt、日本リスク工学会投函資料						
今後の課題	今回取り組んだテーマ以外にも、セミナー等に参加し、理解を深めたいと思う。						
総合自己評価	まず、問題を自分で設定することが初めてで、よい経験になった。細かいところまで解決策を詰めることができたことは自信につながった。						
⑥プレゼン・コミュニケーション能力		基準	1st	2nd	3rd	4th	教員評価・コメント
修士の学位にふさわしいプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有しているか		6.0	0.00	—	—	—	(A, B, C, D : リストから選択)
主な学修事項	学内で2件・学外で3件の口頭発表 リスク工学グループ演習・研究室週例ゼミ						
進捗状況及びエビデンス	エビデンス:各発表資料(パワーポイントおよびレジメ)・日本リスク研究学会発表概要集						
今後の課題	学外の研究者から学会等でコメントをもらった際にも、コミュニケーション能力が必要となるので、自分の考えを明確に伝えられるよう、経験を積んで行きたい。						
総合自己評価	国際学会を始め、様々な学会で発表を行い、プレゼン能力、コミュニケーション能力ともに向上した。						

達成度評価シート(自己評価書)

第1回 開催: 20YY/MM/DD

トータルリスク

学籍番号: 20xxxxxxx

氏名: 松本トータル

⑦国際的通用性 専門分野において国際的に通用する学識を備えているか		教員コメント
主な学修事項	MDAI2014での英語発表、Prof. Liuの講演(ソフトコンピューティングセミナー)への参加	
進捗状況及びエビデンス	エビデンス:MDAI2014 abstracts	
今後の課題	英語での口頭発表を行った際、質疑で十分に答えることができなかったため、今後は集中的に取り組んでいきたい。	
総合自己評価	国際学会における英語の発表を通して、国際的意識が芽生えた。	
⑧学術的成果 修士の学位を授与してよいと判定できる学術的成果を有しているか		教員コメント
主な学修事項	FSS14, MDAI2014, 日本リスク研究学会への論文投稿および発表	
進捗状況及びエビデンス	エビデンス:FSS14 abstracts, MDAI2014 abstracts, 日本リスク研究学会論文集	
今後の課題	投稿論文の本数を増やしたい。	
総合自己評価	国内学会における2回の発表、国際学会における発表を行い、学術的成果を残した。	
教員総合所見		

- ① 専門分野について修士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を備えているか
- ② 専門に関連した分野について、専門分野ほど深くはないとしても、修士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を備えているか
- ③ 現実の問題について、修士の学位にふさわしいレベルのセンス・見識を備えているか
- ④ 修士の学位にふさわしい視野の広さを有しているか
- ⑤ 専門的応用能力である問題設定から解決までのプロセスを理解し、具体的解決に導くことができるか
- ⑥ 修士の学位にふさわしいプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有しているか
- ⑦ 専門分野において国際的に通用する学識を備えているか
- ⑧ 修士の学位を授与してよいと判定できる学術的成果を有しているか

達成度評価シート(自己評価書)

第1回 開催:20YY/MM/DD

サイバーリスク

学籍番号: 20xxxxxxx

氏名: サイバー リス子

①専門基礎		基準	1st	2nd	3rd	4th	教員評価・コメント
専門分野について修士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を備えているか		8.0	8.20	—	—	—	(A, B, C, D : リストから選択)
主な学修事項	専攻演習での研究発表および論文サーベイを行った。該当分野の単位取得を行った。Visiting Professorの講演会に参加した。						
進捗状況及びエビデンス	ポイントが基準値を超えた。エビデンス:学会発表資料・ゼミ資料・自習ノート						
今後の課題	自分の研究に関連ある分野の授業の残りを履修する。						
総合自己評価	専門的な知識が学部時代と比較して格段に身に付いた。						
②関連分野基礎		基準	1st	2nd	3rd	4th	教員評価・コメント
専門に関連した分野について、専門分野ほど深くはないとしても、修士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を備えているか		5.0	5.60	—	—	—	(A, B, C, D : リストから選択)
主な学修事項	リスク他分野の単位を取得した。グループ演習でのアンケート調査を行い、RERMでの質疑に参加した。企業と技術者倫理についての単位を取得した。						
進捗状況及びエビデンス	エビデンス:講義ノート、提出レポート、RERMメモ						
今後の課題	関連分野基礎のポイントについては基準を超えたが、興味ある講義は履修して知識を深めたい。						
総合自己評価	関連分野の基礎については、成績はすべてAまたはA+であり、基準ポイントに到達した。						
③現実問題の知識		基準	1st	2nd	3rd	4th	教員評価・コメント
現実の問題について、修士の学位にふさわしいレベルのセンス・見識を備えているか		6.0	3.30	—	—	—	(A, B, C, D : リストから選択)
主な学修事項	企業技術者が講師である授業の単位を履修した。実際の企業における実例を学んだ。						
進捗状況及びエビデンス	企業技術者の講演をもとにグループワークを行い、実際の情報セキュリティの状態を知ることができた。エビデンス:講義資料						
今後の課題	本分野の技術は日進月歩であるので、これからも最新の情報を仕入れて行かなくてはならない。						
総合自己評価	上記の講義を通じて一定の現実問題の知識を修得できたと考えている。						
④広い視野		基準	1st	2nd	3rd	4th	教員評価・コメント
修士の学位にふさわしい視野の広さを有しているか		6.0	4.50	—	—	—	(A, B, C, D : リストから選択)
主な学修事項	グループ演習にて文献調査を行い、最終報告書作成および口頭発表を行った。						
進捗状況及びエビデンス	グループ演習では全く予備知識のない分野で活動を行ったので、まず文献調査を行い知識を深めた。エビデンス:グループ演習最終報告書、発表PPT						
今後の課題	研究テーマ以外にもアンテナを張り、リスク工学的なアプローチについて考えて行きたい。						
総合自己評価	学部4年のときから比較すると、修士に入ってから研究に対する視野および将来に対する視野が大きく広がった。						
⑤問題設定から解決まで		基準	1st	2nd	3rd	4th	教員評価・コメント
専門的応用能力である問題設定から解決までのプロセスを理解し、具体的解決に導くことができるか		4.0	0.00	—	—	—	(A, B, C, D : リストから選択)
主な学修事項	グループ演習において、メンバーと演習内容を議論し、実地調査および結果の分析を行った。						
進捗状況及びエビデンス	問題の設定に最も時間をかけたが、一定の成果を出せた。エビデンス:グループ演習ポスター・最終報告書・最終発表会ppt、日本リスク工学会投稿論文						
今後の課題	今回取り組んだテーマ以外についても、セミナー等に参加し、理解を深めたいと思う。						
総合自己評価	ある程度の計画する力が身に付いたと思う。						
⑥プレゼン・コミュニケーション能力		基準	1st	2nd	3rd	4th	教員評価・コメント
修士の学位にふさわしいプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有しているか		6.0	0.00	—	—	—	(A, B, C, D : リストから選択)
主な学修事項	専攻演習で発表。テクニカルライティングで英語スピーチ。						
進捗状況及びエビデンス	エビデンス:各発表資料(パワーポイントおよびレジメ)						
今後の課題	専門以外の方でもわかるように務めたが、質疑で上手に答えることができなかったため、改善が必要である。						
総合自己評価	学内外で発表を行い、プレゼン能力、コミュニケーション能力ともに向上した。						

達成度評価シート(自己評価書)

第1回 開催: 20YY/MM/DD

サイバースク

学籍番号: 20xxxxxx

氏名: サイバー リス子

⑦国際的通用性 専門分野において国際的に通用する学識を備えているか		教員コメント
主な学修事項	外国人研究者の招待講演への参加	
進捗状況及びエビデンス	エビデンス: 講演時の配布レジメ	
今後の課題	英語での研究発表を聞くのは良い勉強になったが、その場で英語での質問がまだできない。より深い議論を行うためにも更に英語を勉強したい。	
総合自己評価	英語での講演内容がだいぶ聞き取れるようになった。	
⑧学術的成果 修士の学位を授与してよいと判定できる学術的成果を有しているか		教員コメント
主な学修事項	教員と議論・考察を行い、実験した。その結果をまとめ、研究員・指導教員とさらに議論を行った。	
進捗状況及びエビデンス	上記の結果を論文にまとめ、投稿する準備をすすめている。エビデンス: 下書き原稿	
今後の課題	投稿論文の本数を増やしたい。	
総合自己評価	議論および考察は順調に進んでいる。早めに論文を仕上げたい。	
教員総合所見		

- ① 専門分野について修士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を備えているか
- ② 専門に関連した分野について、専門分野ほど深くはないとしても、修士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を備えているか
- ③ 現実の問題について、修士の学位にふさわしいレベルのセンス・見識を備えているか
- ④ 修士の学位にふさわしい視野の広さを有しているか
- ⑤ 専門的応用能力である問題設定から解決までのプロセスを理解し、具体的解決に導くことができるか
- ⑥ 修士の学位にふさわしいプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有しているか
- ⑦ 専門分野において国際的に通用する学識を備えているか
- ⑧ 修士の学位を授与してよいと判定できる学術的成果を有しているか

達成度評価シート(自己評価書)

第1回 開催:20YY/MM/DD

都市リスク

学籍番号: 20xxxxxxx

氏名: 都市太郎

①専門基礎		基準	1st	2nd	3rd	4th	教員評価・コメント
専門分野について修士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を備えているか		8.0	3.80	—	—	—	(A, B, C, D : リストから選択)
主な学修事項	単位取得とともに、研究室ゼミや学外での発表を行っている。また研究に必要な統計学の復習、GISの操作方法の修得を行っている。						
進捗状況及びエビデンス	学会発表を行い、研究の改善点や知識不足の部分が確認できた。エビデンス:学会発表資料・ゼミ資料・自習ノート・投稿論文の下書き原稿						
今後の課題	さらに研究を進め、国際誌への論文投稿を目指す。						
総合自己評価	学会発表ができたことは一定の成果であると自己評価している。						
②関連分野基礎		基準	1st	2nd	3rd	4th	教員評価・コメント
専門に関連した分野について、専門分野ほど深くはないとしても、修士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を備えているか		5.0	2.60	—	—	—	(A, B, C, D : リストから選択)
主な学修事項	他分野の単位取得、RERMへの参加、国内・国際学会への参加						
進捗状況及びエビデンス	各講義,RERMを通してそれぞれの分野の課題や概要についての知識を深めた。エビデンス:講義ノート、提出レポート						
今後の課題	今後は、より発展的な内容について修得して行きたい。						
総合自己評価	関連分野の基礎については、ある程度修得できたと考えている。						
③現実問題の知識		基準	1st	2nd	3rd	4th	教員評価・コメント
現実の問題について、修士の学位にふさわしいレベルのセンス・見識を備えているか		6.0	3.30	—	—	—	(A, B, C, D : リストから選択)
主な学修事項	単位取得、RERMへの参加、グループ演習						
進捗状況及びエビデンス	大規模な停電や事故時におけるリスクの低減に関し、実際にどのような活動が行われているのか現場に関する知識を深めた。エビデンス:RERM資料、講義資料						
今後の課題	今後もRERM等を通じて現場への理解を深めて行きたい。						
総合自己評価	RERM等を通じて一定の現実問題の知識を修得できたと考えている。ただし、このような知識は常に変動しているものであり、今後も継続的に参加し、学修を深めたい。						
④広い視野		基準	1st	2nd	3rd	4th	教員評価・コメント
修士の学位にふさわしい視野の広さを有しているか		6.0	4.50	—	—	—	(A, B, C, D : リストから選択)
主な学修事項	他専攻科目および他のリスク分野の科目を8単位修得した。またRERMに8回参加した。						
進捗状況及びエビデンス	RERMでは特に専攻の先輩がたの話を聞いたり、また全くなじみのない分野の話も聞いた。このことにより視野が広がったと感ぜられる。エビデンス:RERM資料						
今後の課題	広い視野をますます獲得できたと思うが、今後もさらに高めて行きたい。						
総合自己評価	RERMを通じて、研究に対する視野および将来に対する視野が広がった。						
⑤問題設定から解決まで		基準	1st	2nd	3rd	4th	教員評価・コメント
専門的応用能力である問題設定から解決までのプロセスを理解し、具体的解決に導くことができるか		4.0	0.00	—	—	—	(A, B, C, D : リストから選択)
主な学修事項	グループ演習において、研究とは異なる分野のテーマを行い、発表した。						
進捗状況及びエビデンス	グループの中で問題点についてコンセンサスをとり、解決策を提案するに至った。エビデンス:グループ演習ポスター・最終報告書・最終発表会パワーポイント						
今後の課題	今後は、個人でなんらかの課題に取り組んだ場合でも、同様に「問題設定から解決まで」を見出すことができるようにしたい。						
総合自己評価	グループ演習で、新型インフルエンザをテーマに取り組み、一定の成果を得ることができた。この過程で問題設定～解決策までの経験を積んだといえる。						
⑥プレゼン・コミュニケーション能力		基準	1st	2nd	3rd	4th	教員評価・コメント
修士の学位にふさわしいプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有しているか		6.0	0.00	—	—	—	(A, B, C, D : リストから選択)
主な学修事項	学内で2件・学外で2件の口頭発表 リスク工学グループ演習・研究室週例ゼミ						
進捗状況及びエビデンス	エビデンス:各発表資料(パワーポイントおよびレジメ)						
今後の課題	質疑応答については、一部正確に答えることができなかった。今後は質疑についても事前に模擬Q&Aを行って対策を練ることとする。						
総合自己評価	明瞭なプレゼンテーションができるようになってきた。学外発表で他の人の発表も見たので、参考にすることができた。						

達成度評価シート(自己評価書)

第1回 開催:20YY/MM/DD

都市リスク

学籍番号: 20xxxxxxx

氏名: 都市太郎

⑦国際的通用性 専門分野において国際的に通用する学識を備えているか		教員コメント
主な学修事項	USMCA2014に向けて、英語でのアブストラクト投稿を行った。	
進捗状況及びエビデンス	アブストラクトは受理され、現在英語論文を執筆中である。エビデンス:USMCA2014 発表概要集	
今後の課題	英語力強化のため、ライティング講座の受講を予定している。	
総合自己評価	英語でのアブストラクトが受理されたことにより、自信がついた。	
⑧学術的成果 修士の学位を授与してよいと判定できる学術的成果を有しているか		教員コメント
主な学修事項	AIJ2014大会論文、CPIJ2014査読論文を投稿し、発表を行った。	
進捗状況及びエビデンス	エビデンス:AIJ2014	
今後の課題	CPIJ2014での考察が不十分である。条件を変えて解析を行うことで、論文をもう一報増やすことを目指す。	
総合自己評価	学会発表、および論文投稿を通じて、自分でも学術的成果を挙げたことが実感できた。	
教員総合所見		

- ① 専門分野について修士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を備えているか
- ② 専門に関連した分野について、専門分野ほど深くはないとしても、修士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を備えているか
- ③ 現実の問題について、修士の学位にふさわしいレベルのセンス・見識を備えているか
- ④ 修士の学位にふさわしい視野の広さを有しているか
- ⑤ 専門的応用能力である問題設定から解決までのプロセスを理解し、具体的解決に導くことができるか
- ⑥ 修士の学位にふさわしいプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有しているか
- ⑦ 専門分野において国際的に通用する学識を備えているか
- ⑧ 修士の学位を授与してよいと判定できる学術的成果を有しているか

達成度評価シート(自己評価書)

第1回 開催: 20YY/MM/DD (後期)〇〇リスク 学籍番号: 20xxxxxxx 氏名: リスク博士

①専門基礎		基準	1st	2nd	3rd	4th	教員評価・コメント
専門分野について修士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を備えているか		8.0	0.00	—	—	—	(A, B, C, D : リストから選択)
主な学修事項	研究テーマを進め、学術雑誌および国際会議へ論文を投稿した。カーネル関数、半教師付き学習に関する文献を読み理解を進めている。						
進捗状況及びエビデンス	参加を予定していた学会へ論文を投稿し、口頭発表を行った。今後は、現在研究が盛んな半教師付き学習に関する理解を深めるとともに、自らの研究テーマへの応用を併せて考えたい。エビデンス:学修ノート、ゼミ資料、学術雑誌投稿論文、学会投稿論文						
今後の課題	カーネル関数および半教師付き学修に関する理解が不十分のため、文献調査などを行い正確に理解し、研究テーマへの応用を考えたい。						
総合自己評価	現在の研究テーマに関する論文が複数件の学術雑誌および国際会議へ採択されたことは満足している。						
②関連分野基礎		基準	1st	2nd	3rd	4th	教員評価・コメント
専門に関連した分野について、専門分野ほど深くはないとしても、修士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を備えているか		5.0	0.00	—	—	—	(A, B, C, D : リストから選択)
主な学修事項	リスク工学専攻演習およびRERMへの参加。リスク工学後期プロジェクト研究の単位取得。FSS2014において、パターン認識手法の応用に関するセッションに参加した。						
進捗状況及びエビデンス	専門分野の理論だけでなく、応用に関する知識・取り組みの必要性を感じた。また、リスク工学専攻演習およびRERMへ参加し、他分野への理解が深まった。エビデンス:学修ノート、論文メモ、RERMメモ						
今後の課題	関連分野の知識として、特に最適化数学に関して、より取り組む必要があると感じている。また、解析学および線形代数なども継続して取り組みたい。専門分野の応用に関する知識も深めたいと思う。						
総合自己評価	関連分野に関する基礎知識は着実に身に付いていると感じる。						
③現実問題の知識		基準	1st	2nd	3rd	4th	教員評価・コメント
現実の問題について、修士の学位にふさわしいレベルのセンス・見識を備えているか		6.0	0.00	—	—	—	(A, B, C, D : リストから選択)
主な学修事項	リスク工学専攻演習およびRERMへの参加。リスク工学後期プロジェクト研究の単位取得。FSS2014において、パターン認識手法の応用に関するセッションに参加した。						
進捗状況及びエビデンス	ソフトコンピューティング手法の現実問題への応用や問題設定など理論以外の面への理解が深まった。また、RERMでは他分野の最新テーマを聞くことが出来た。エビデンス:学修ノート、論文メモ、RERMメモ						
今後の課題	研究テーマの応用に関しては今後も継続して取り組み、理論と応用の両方に関して理解を深めたいと感じている。						
総合自己評価	リスク工学専攻演習やRERMへの参加を通して、リスク工学に関する問題はある程度理解できていると感じている。						
④広い視野		基準	1st	2nd	3rd	4th	教員評価・コメント
修士の学位にふさわしい視野の広さを有しているか		6.0	0.00	—	—	—	(A, B, C, D : リストから選択)
主な学修事項	リスク工学専攻演習およびRERMへの参加。リスク工学後期プロジェクト研究の単位取得。FSS2014やMDAI2014などで専門分野以外のセッションに参加した。						
進捗状況及びエビデンス	ソフトコンピューティング手法の現実問題への応用や問題設定など理論以外の面への理解が深まった。また、RERMでは他分野の最新テーマを聞くことが出来た。エビデンス:学修ノート、論文メモ、RERMメモ						
今後の課題	リスク工学専攻演習やRERMへの参加を通して、リスク工学的な物事の捉え方ができていると感じている。現在は問題として扱われていないような物事についても考えられるよう、今後も継続してセミナー等に参加したいと思う。						
総合自己評価	これらの活動を通じて、RERMで聴講した分野の範囲ではあるが、広い視野を養いつつあると感じる。						
⑤問題設定から解決まで		基準	1st	2nd	3rd	4th	教員評価・コメント
専門的応用能力である問題設定から解決までのプロセスを理解し、具体的解決に導くことができるか		4.0	0.00	—	—	—	(A, B, C, D : リストから選択)
主な学修事項	新たな研究テーマを定め、その解決に取り組んでいる。リスク工学後期プロジェクト研究の単位を取得した。						
進捗状況及びエビデンス	新たに設定した問題が既存の手法とどのように関連があるかサーベイを行う予定である。リスク工学プロジェクト研究で取り組んだテーマにより、現実問題の考え方および取り組み方を理解した。エビデンス:学修ノート、リスク工学後期プロジェクト研究最終レポートおよびRERM発表資料						
今後の課題	リスク工学後期プロジェクト研究では、現実問題への取り組み方をある程度理解し、実践できたと感じている。						
総合自己評価	新たな問題を設定できたことは、研究テーマに関する理解が深まったことを意味していると感じている。						

達成度評価シート(自己評価書)

第1回 開催: 20YY/MM/DD (後期)〇〇リスク 学籍番号: 20xxxxxxx 氏名: リスク博士

⑥プレゼン・コミュニケーション能力		基準	1st	2nd	3rd	4th	教員評価・コメント
修士の学位にふさわしいプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有している		6.0	0.00	—	—	—	(A, B, C, D : リストから選択)
主な学修事項	国内シンポジウムおよび国際会議において、7件の口頭発表を行った。その際に、専門分以外の研究者と積極的にディスカッションを行った。						
進捗状況及びエビデンス	WCCIでは質疑にうまく答えることができなかったが、その後参加したSCISおよびMDAIでは英語による質疑応答を十分に行うことが出来た。プレFDを行った。エビデンス: 学会発表資料、リスク工学後期プロジェクト研究発表資料、プレFD資料						
今後の課題	英語による質疑の問題点を3ヶ月の間に改善できたことは評価できると感じており、今後も継続して英語力の向上に取り組みたい。						
総合自己評価	発表の焦点をどこに当てるかを意識することで、わかりやすい発表ができていると感じている。						

⑦国際的通用性		教員コメント
専門分野において国際的に通用する学識を備えているか		
主な学修事項	以下の国際会議において口頭発表を行った。 FUZZ-IEEE2013, GrC2013, WCCI2014, SCIS2014, MDAI2014	
進捗状況及びエビデンス	現在までに、5件の国際会議で口頭発表を行った。今年度参加した2件の国際会議から、Special Issueへ推薦され、投稿した論文が現在査読中である。エビデンス: 学会投稿論文、学会発表資料	
今後の課題	英語による口頭発表には慣れてきたが、質疑にシンプルに答えることができないため、今後の問題として取り組みたい。セッション中に質問できるよう英語力の向上に取り組みたい。	
総合自己評価	英語での口頭発表および論文投稿を通じ、国際的通用性が養われていると思われる。	

⑧学術的成果		教員コメント
修士の学位を授与してよと判定できる学術的成果を有しているか		
主な学修事項	日本知能情報ファジィ学会誌への投稿論文が採択され、掲載済みである。また、5件の国際会議に第一著者として投稿した論文が採択された。	
進捗状況及びエビデンス	エビデンス: 学術雑誌掲載論文、学会投稿論文、学会発表資料	
今後の課題	国際会議および学術雑誌への投稿を今後も継続したい。特に、IFSA2015, FUZZ2015およびMDAI2015へ投稿できるよう研究に取り組みたい。	
総合自己評価	日本知能情報ファジィ学会誌および複数件の国際会議へ第一著者として投稿した論文が採択されたことは満足している。これで気を抜くことなく、今後も今以上に取り組みたいと感じている。	

教員総合所見	
---------------	--

- ① 専門分野について修士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を備えているか
- ② 専門に関連した分野について、専門分野ほど深くはないとしても、修士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を備えているか
- ③ 現実の問題について、修士の学位にふさわしいレベルのセンス・見識を備えているか
- ④ 修士の学位にふさわしい視野の広さを有しているか
- ⑤ 専門的応用能力である問題設定から解決までのプロセスを理解し、具体的解決に導くことができるか
- ⑥ 修士の学位にふさわしいプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有しているか
- ⑦ 専門分野において国際的に通用する学識を備えているか
- ⑧ 修士の学位を授与してよと判定できる学術的成果を有しているか

5 「達成度評価資料」について

「達成度評価資料」ファイルの入力方法（前期課程用）

1. 「達成度評価資料」ファイルの構成

40		1421年度-大学院メタメタインシステム特論																
41	サイバー	情報セキュリティ特論	01CF207	2		1.0	0.5	0.5										
42	都市	都市リスク管理特論	01CF301	2		1.0	0.5	0.5										
43	都市	都市機能リスク論	01CF302	2		1.0	0.5	0.5										

- ・『他専攻・他研究科等の科目履修に係るポイント付与申請書【1】～【3】』
 - ・『専攻開設科目ポイント表』
 - ・『達成度評価シート①～④』
 - ・『グラフ』
 - ・『達成度評価記録』
- } 計 10 シート

2. 他専攻・他研究科等の科目履修に係るポイント付与申請書入力方法と申請の流れ

(1) 申請は原則、決められた申請期間内に行う。詳細な日付はその都度学生宛に案内メールが送られる予定だが、概ね以下の日程で行われる。

春 ABC モジュール申請期間：入学式～春 A 開始科目の TWINS 履修申請締切の約 1 週間前

秋 ABC モジュール申請期間：秋 A 開始日～ 秋 A 開始科目の TWINS 履修申請締切の約 1 週間前

(春 A・秋 A 以外の開始科目もあるので、追加・変更等ある場合はその都度速やかに申請を行うこと)

(2) 『他ポ【1】』シートから使用する。

※もし間違えて『他ポ【2】』『他ポ【3】』シートから使用してしまってもポイント表には反映されるが、確認する際に分かりにくいので、『他ポ【1】』から順番に埋めていくのが望ましい。

他専攻・他研究科等の科目履修に係るポイント付与申請書 1														
1														
2	分野	未選択			学年	未選択	学生氏名					達成度評価委員長		

(3) 「分野」・「学年（入力時点の学年）」をドロップダウンリストから選択する。

(4) 「学生氏名」・「達成度評価委員長」欄を入力する。

14																
15	区分選択	申請科目名					①専門基礎	②関連基礎	③横断問題	④広い視野	⑤問題解決	⑥プレゼン	申請日	成績		
16	申請	未選択											申請	未選択		
17	1	科目番号	便覧P	開講学期	曜時限	単位数	申請割合	申請理由:				申請区分	承認			
18				未選択	未選択		0.0					承認	承認日	達評委員長承認済	専攻長承認済	

(5) 「成績」欄以外の白い枠が入力可能となっている。「成績」欄は、申請内容が承認された後、入力可能となる。

(6) 「区分選択」→ドロップダウンリストから選択する。

他研究科科目
大学院共通科目
他専攻科目
研究科共通科目

この 2 つを選択すると、成績入力欄の下に「大学院教務へも申請必要」と表示される。申請用紙は研究科HP内、大学院生の学生用ページを参照。直接大学院教務に提出。
<http://www.sie.tsukuba.ac.jp/private/pub-student/>

(7) 申請科目名・科目番号・便覧P・開講学期・曜時限・単位数・ポイント配分案・申請日・申請理由を入力する。

※大学院便覧を見ながら、正確な情報を入力する。

※大学院便覧で、開講学期や曜時限が空欄となっていたら、ドロップダウンリストから選択せず、未選択のままとする。

(8) 学生は「達成度評価資料」ファイル全体を添付したメールを、達成度評価委員長に送り申請する。

(9) 達成度評価委員長は申請内容をチェックし、GPコアメーリングリスト宛に「達成度評価資料」ファイル全体を添付した承認依頼メールを出す。

(10) 申請内容が承認された場合、処理済みのファイル（申請内容がロックされ、成績入力欄が入力可能となり、「達評委員長承認済」「専攻長承認済」の赤いマークが表示されている）が、学生と達成度評価委員長宛にメールされる。

否承認の連絡があった場合は、再申請をする。

(11) 次の申請時には別のシートを使うのではなく、同じシートの空いている入力欄を上から順に使用する。

3. 達成度評価委員会前の入力

(1) TWINS の成績表を準備する。

(2) 「達成度評価資料」の『専攻開設科目ポイント表』シートを開く。

リンクが無効になっている場合は、リンクを有効にして使用する。

(3) 「作成日（入力時点の日付）」を入力。

例：2010/4/1→2010年4月1日と表示される

	A	B	C	D	E	F	G	L	Q	V	AA	AF	AK	AM	AO	AQ
1			作成日		学年	未選択	分野		未選択		氏名					
3			開催区分→	選択してください	取得単位	①専門基礎	②関連分野基礎	③現実問題の知識	④広い視野	⑤問題設定から解決まで	⑥プレゼンテーション能力					
4	第1回	a	専攻開設科目	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
5		b	他専攻等科目	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
6		c	第1回小計(a+b)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
7	第2回	d	専攻開設科目	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
8		e	他専攻等科目	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					

(4) 「学年（入力時点の学年）」「分野」をドロップダウンリストより選択。※特に「分野」は必ず選択すること。

(5) 「氏名」を入力。

(6) 「開催区分」をドロップダウンリストより選択。

例：「第1回達成度評価委員会」を選択→「第1回成績入力」セルの文字が黄色になる。

※ここが未選択となっていると、グラフへの反映が正しくされないので注意。

	科目区分	科目名	科目番号	単位数	①専門基礎	②関連分野基礎	③現実問題の知識	④広い視野	⑤問題設定から解決まで	⑥プレゼンテーション能力	第1回成績入力	第2回成績入力	第3回成績入力	第4回成績入力
19	共通科目	リスク工学前期特別演習	01CF011	1	0.5					0.5				
20	共通科目	リスク工学前期特別研究Ⅰ	01CF012	4	1.5		0.5		1.0	1.0				
22	共通科目	リスク工学前期特別研究Ⅱ	01CF013	6	2.0		1.0		1.5	1.5				
23	共通科目	リスク工学概論	01CF014	1		0.4	0.3	0.3						

- (7) 成績表を見ながら成績をドロップダウンリストより選択する。
- (8) 専攻開設科目以外の科目については、『他ポ【1】～【3】』シートに成績を入力する。
ポイント付与申請がなされていない他専攻等科目については、成績が入力できなくなっている。やむを得ない理由の場合は、期間外であっても前述の「2. 他専攻・他研究科等の科目履修に係るポイント付与申請書入力方法と申請の流れ」に従って申請をする。この場合、メール本文に期間外申請の理由について述べ、承認を求める。
- (9) 「評価①～④」シートのうち該当シートを開き、開催日・分野名・学籍番号を入力する。氏名は「専攻開設科目ポイント表」からのリンクとなっている。

第1回達成度評価委員会		開催日	分野名	未選択	学籍番号	氏名	評価
達成度評価項目 (基準ポイント)	取得ポイント	取得単位	主な学修事項	進捗状況 今後の検討事項	エビデンス (参照文書名)	総合自己評価	教員 評価 口
①専門基礎(基準)は専門分野について、修士の学位にあまわしいレベルの基礎能力を有しているか。	第1回 0.00 第2回 第3回 第4回						<input type="checkbox"/> 優れている <input type="checkbox"/> 妥当 <input type="checkbox"/> 努力を要す <input type="checkbox"/> 達成度不足 A: B: C: D:

- (10) 自己評価を入力。「評価②～④」のシートの場合は、前回からの差分を赤字で入力。
- (11) 「グラフ」シートの「氏名」・「所属分野」・「日付（資料を作成した日）」を入力する。

氏名	所属分野	未選択	日付
第1回達成度評価委員会 取得ポイント			
第1回	①専門基礎	②関連分野基礎	③現実問題の知識
	④広い視野	⑤問題設定から解決まで	⑥プレゼン・コミュニケーション能力
	0.0	0.0	0.0
	0.0	0.0	0.0
	0.0	0.0	0.0

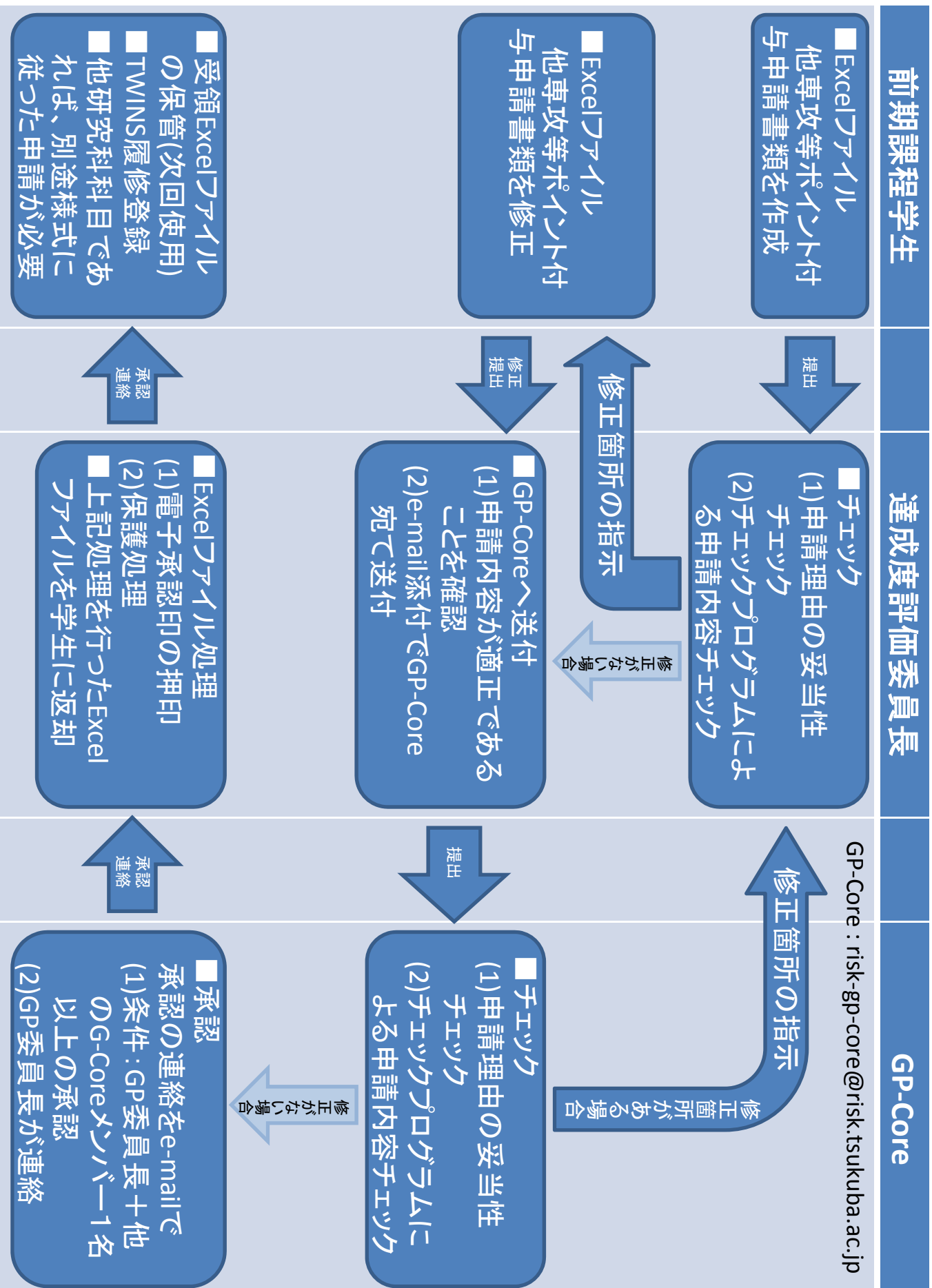
4. 達成度評価委員会に必要な資料について

資料名	部数	対象学生
TWINS『個人成績参照』ページ	1部	全員
学生ポートフォリオ・エビデンスファイル	一式	全員
達成度評価シート（自己評価書）	達成度評価委員の人数分	全員
専攻開設科目ポイント表	達成度評価委員の人数分	前期課程学生のみ
グラフ	達成度評価委員の人数分	前期課程学生のみ
他専攻・他研究科等の科目履修に係るポイント付与申請書	達成度評価委員の人数分	前期課程学生の申請者のみ

5. 問い合わせ先

資料作成についての質問は、各分野のTA、またはTAメーリングリストへ
risk-gp-ta@risk.tsukuba.ac.jp

以上



科目番号	大学院共通科目・研究科共通科目	単位数	開講時期	曜時間	ポイント 総計	①専門基 礎	②関連分 野基礎	③現実問 題の知識	④広い視 野	⑤問題設 定から解 決まで	⑥ディジ タル・コ ミュニ ケーション 能力	備考
01Z2101	「分析・操作の対象としての人間」と「人格としての人間」	1	秋A	集中	1		0.4	0.3	0.3			
01Z2103	応用倫理	1	秋A	集中	1		0.4	0.3	0.3			
01Z2104	環境倫理学概論	1	秋B	集中	1		0.4	0.3	0.3			
01Z2105	研究倫理	1	春B	集中	1		0.4	0.3	0.3			
01Z2106	生命倫理学	1	秋A	集中以外	1		0.4	0.3	0.3			
01Z2107	企業と技術者の倫理	1	春C	集中	1		0.4	0.3	0.3			
01Z2201	研究学—独創的研究を目指し—	1	秋AB	集中以外	1		0.4	0.3	0.3			
01Z2202	リスクマネジメント序論	1	春C	集中	1		0.4	0.3	0.3			
01Z2203	知的所有権論	1	秋B	集中	1							
01Z2204	科学技術・学術政策概論	1	春B	集中	1							
01Z2205	研究者のための学術情報流通論	1	春AB	集中	1							
01Z2206	Research Management Skills	1	秋A	集中	1							
01Z2301	先端コミュニケーション・インターフェース	1	春AB	集中	1				0.5		0.5	
01Z2304	デジタルコミュニケーション	1	春A	集中	1				0.5		0.5	
01Z2305	英語発表	1	春C	集中	1							
01Z2306	科学英語論文ライティングプラクティス	1	春C	集中	1							
01Z2308	サイエンスコミュニケーション養成実践講座	4	春C夏季休業中	集中	1				0.5		0.5	
01Z2312	異分野コミュニケーションのためのプレゼンテーションバトル	2	春AB秋AB	集中	1				0.5		0.5	
01Z2313	Communication Skills Training	1	秋ABC	集中	1							
01Z2314	第一線研究者 教員プレゼンバトル	1	春AB秋AB	集中	1				0.5		0.5	
01Z2316	サイエンスライティング	1	通年	集中	1							
01Z2318	サイエンスコミュニケーション概論	1	春ABC	集中	1							
01Z2319	サイエンスコミュニケーション特論	1	秋ABC	集中	1							
01Z2320	実践型 科学コミュニケーショントレーニング	2	通年	集中	2							
01Z2321	グローバル交渉と国際対話—筑波英語模擬国連	2	秋AB	集中	2							
01Z2322	サイエンスコミュニケーション実践論	1	春ABC	集中以外	1							
01Z2323	リスクコミュニケーション入門	1	秋ABC	集中以外	1							
01Z2402	21世紀的中国—現代中国の多相—	2	春AB	集中	1							
01Z2405	Special Preparation for TOEFL iBT	1	秋A	集中	1							
01Z2410	国際研究プロジェクト(受講にあたっては別途協議)	1	通年	集中	1							
01Z2411	国際インターンシップ(受講にあたっては別途協議)	1	通年	集中	1							
01Z2412	Global Communication Practice	1	通年	集中	1				0.5		0.5	
01Z2413	国際環境問題と日本外文	1	春B秋A	集中	1							
01Z2414	国際ビジネスと標準化	1	春ABC	集中	1							
01Z2501	教育・研究指導Ⅲ(教師論)	1	秋ABC	集中	1							
01Z2502	教育・研究指導Ⅲ(職業としての大学教育)	1	春ABC	集中	1							
01Z2503	「仕事と生活」と男女共同参画-WLB(ワーク・ライフ・バランス)を軸に未来予想図を描こう	1	夏季休業中	集中	1					1		
01Z2504	「魅力ある理科教員になるための生物・地学実験」	2	通年	集中	1							
01Z2505	博士のキャリアパス	1	春ABC	集中	1							
01Z2510	世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる連続7レール講義「社会基礎学—グローバル人材に不可欠な教養I—」	1	春AB	集中	1					1		
01Z2511	世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる連続7レール講義「社会基礎学—グローバル人材に不可欠な教養II—」	1	春BC	集中	1					1		
01Z2512	世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる連続7レール講義「社会基礎学—グローバル人材に不可欠な教養III—」	1	秋AB	集中	1					1		
01Z2513	JAPICアドバンスドデイズカレッジコースI=多様化時代への日本の挑戦、そして諸君の挑戦	1	春ABC	集中	1					1		
01Z2514	JAPICアドバンスドデイズカレッジコースII=ポレトガバナンス(企業統治)についての事例研究	1	秋AB	集中	1					1		
01Z2515	JAPICアドバンスドデイズカレッジコースIII=テクノロジーとグローバルで拓く未来	1	秋BC	集中	1					1		
01Z2517	Introduction to Management	1	秋AB	集中	1							
01Z2519	キャリア形成のためのセルフプロモーション実習	1	春C秋ABC	集中	1							
01Z2520	「仕事と生活」と男女共同参画-WLB(ワーク・ライフ・バランス)を軸に未来予想図を描こう	1	春季休業中	集中	1					1		
01Z2521	Career Development for University Students	1	秋ABC	集中	1							
01Z2522	高校における科学コミュニケーション教育	1	春ABC	集中	1							
01Z2523	ワークライフミックス—モバハスに学ぶパラダイムシフト	1	春ABC	集中	1							
01Z2524	Design/Create Future with Vitae RUF	1	通年	集中	1							
01Z2601	化学物質の安全衛生管理	1	春AB	集中以外	1		0.4	0.3	0.3			
01Z2602	放射線科学—その基礎理論と応用—	1	春A	集中	1							
01Z2603	機械工作序論と実習	1	春C夏季休業中	集中	1							
01Z2604	計算科学リテラシー	1	春ABC	集中	1							
01Z2605	計算科学リテラシー—Computational Science Literacy	1	秋ABC	集中	1							
01Z2606	計算科学のための高性能並列計算技術(日本語)	1	春ABC	集中	1							
01Z2607	計算科学のための高性能並列計算技術 High Performance Parallel Computing Technology for Computational Sciences	1	秋ABC	集中	1					1		
01Z2609	Science Mini-tour to Top Research Institutes in Tsukuba Science City	1	秋ABC	集中	1					1		
01Z2610	環境・エネルギー・経済(3E)概論	1	秋ABC	集中	1		0.4	0.3	0.3			
01Z2611	生物多様性と地球環境	1	春C	集中	1		0.4	0.3	0.3			
01Z2612	内部共生と生物進化	1	春ABC	集中	1							
01Z2613	日本の産物のフィードバックに出かけよう	1	通年	集中	1							
01Z2614	海洋生物の世界と海洋環境講座	1	夏季休業中	集中	1							
01Z2615	UI—Top Academist's Lecture	1	春AB	集中以外	1							
01Z2616	パフォーマンス&アーツにみる身体	1	夏季休業中	集中	1							
01Z2617	こころの神経科学	1	夏季休業中	集中	1							
01Z2618	科学的発見と創造性	1	春A	集中	1							
01Z2619	宇宙の歴史	1	秋A	集中	1							
01Z2621	自然災害にどう向き合うか	1	春C	集中以外	1		0.4	0.3	0.3			
01Z2622	「考える」動物としての人間—東西哲学からの考察	1	秋C春季休業中	集中	1							
01Z2701	「かたち」と「こころ」	1	秋ABC	集中	1							
01Z2702	大学院体育1:つくばマラソン	1	春AB秋AB	集中以外	1							
01Z2703	大学院体育2:水泳	1	春AB秋AB	集中以外	1							
01Z2704	大学院体育3:バスケットボール	1	春AB秋AB	集中以外	1							
01Z2705	大学院体育4:ボディワーク(東洋の身体技法)	1	春AB	集中	1							
01Z2707	大学院体育5:スノーボード	1	春季休業中	集中	1							
01Z2708	身体表現論—和太鼓の実践を通して—	1	秋ABC	集中	1							
01Z2710	大学院生の心身の健康管理	1	秋AB	集中以外	1							
01Z2711	大学院体育6:ダンス	1	春AB秋AB	集中以外	1							
01Z2712	大学院体育7:器械運動	1	春ABC	集中以外	1							
01Z2714	大学院体育9:マリンスポーツ	1	春BC	集中	1							
01Z2715	大学院体育10:日本の体育・スポーツ文化	1	春C	集中	1							
01Z2717	大学院体育12:ラケットの世界	1	春C	集中以外	1							

* 注意: 上記はサンプル

他専攻・他研究科等の科目履修に係るポイント付与申請書1

分野	環境・エネルギーリスク	学年	M2	学生氏名	●●●●	達成度評価委員長	●●●●
----	-------------	----	----	------	------	----------	------

- (1)大学院共通科目・研究科共通科目・他研究科開設科目・他専攻開設科目を履修する場合は、この申請書によりポイント付与申請をする。
~~このうち、大学院共通科目・他研究科開設科目については、大学院教務へ「他研究科開設科目の履修について」も提出する。~~
- (2)大学院共通科目・研究科共通科目の申請：別紙「大学院・研究科共通科目ポイント表」に記載されている配分にて申請する。
- (3)上記以外の科目：申請科目が【A】専門基礎型、【B】関連基礎型、どちらに該当するか達成度評価委員長と相談の上申請する。
 【A】専門基礎型→①専門基礎：0.5 ③現実問題：0.25 ④広い視野：0.25 の配分に、単位数を乗じたものを記載。
 【B】関連基礎型→②関連基礎：0.5 ③現実問題：0.25 ④広い視野：0.25 の配分に、単位数を乗じたものを記載。
 【A】【B】どちらにも該当しないと思われる場合は、達成度評価委員長よりG Pコア (risk-gp-core@risk.tsukuba.ac.jp)宛に連絡する。
- (4)申請の流れ：①学生は達成度評価資料.xlsファイル全体を添付したメールを達成度評価委員長宛に送る。
 ②達成度評価委員長は申請内容をチェック後、G Pコアメーリングリスト宛に承認依頼メールを送る。
 ③承認された場合、G P事務室より承認のお知らせと処理済みの達成度評価資料.xlsがメール送信される。否認の場合は再提出。
 ④学生は、達成度評価委員会の前に、成績が出ている科目について成績を入力する。(ポイント表に自動的に反映される)

申請	区分選択	申請科目名					①専門基礎	②関連基礎	③現実問題	④広い視野	⑤問題解決	⑥プレゼン	申請日	成績		
	1	他専攻科目	宇宙エネルギー資源論 (構造エネルギー工学専攻)						1.0	0.5	0.5			申請	20●●年4月23日	A
科目番号		便覧P	開講学期	曜時限	単位数	申請ボ計	申請理由：研究雨に関連が深い内容の科目と思われるため					申請区分	承認	承認日	達評委員長承認済	専攻長承認済
	01CM423	312	2	集中以外	2	2.0						第1回				
2	大学院共通科目	リスクマネジメント序論						0.4	0.3	0.3			申請	20●●年4月26日	A	
	科目番号	便覧P	開講学期	曜時限	単位数	申請ボ計	申請理由：リスクマネジメントの基礎を学びたいため					申請区分	承認	承認日	達評委員長承認済	専攻長承認済
	01ZZ008	-	1	集中	1	1.0						第1回				
3	他専攻科目	パターン認識特論 (知能機能システム専攻)						1.0	0.5	0.5			申請	20●●年4月26日	B	
	科目番号	便覧P	開講学期	曜時限	単位数	申請ボ計	申請理由：研究に関連が深い内容の科目と思われるため					申請区分	承認	承認日	達評委員長承認済	専攻長承認済
	01CK404	309	2	集中以外	2	2.0						第1回				
4	未選択												申請		未選択	
	科目番号	便覧P	開講学期	曜時限	単位数	申請ボ計	申請理由：					申請区分	承認	承認日	達評委員長承認済	専攻長承認済
			未選択	未選択		0.0						未選択				
5	未選択												申請		未選択	
	科目番号	便覧P	開講学期	曜時限	単位数	申請ボ計	申請理由：					申請区分	承認	承認日	達評委員長承認済	専攻長承認済
			未選択	未選択		0.0						未選択				
6	未選択												申請		未選択	
	科目番号	便覧P	開講学期	曜時限	単位数	申請ボ計	申請理由：					申請区分	承認	承認日	達評委員長承認済	専攻長承認済
			未選択	未選択		0.0						未選択				
7	未選択												申請		未選択	
	科目番号	便覧P	開講学期	曜時限	単位数	申請ボ計	申請理由：					申請区分	承認	承認日	達評委員長承認済	専攻長承認済
			未選択	未選択		0.0						未選択				

申請 1 7 集計欄	第1回達評委・他専攻等科目ポイント合計						第1回達評委・他専攻等科目→	5	単位		
	①専門基礎	②関連基礎	③現実問題	④広い視野	⑤問題解決	⑥プレゼン				0.0	2.68
	第2回達評委・他専攻等科目ポイント合計						第2回達評委・他専攻等科目→	0	単位		
	①専門基礎	②関連基礎	③現実問題	④広い視野	⑤問題解決	⑥プレゼン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	第3回達評委・他専攻等科目ポイント合計						第3回達評委・他専攻等科目→	0	単位		
	①専門基礎	②関連基礎	③現実問題	④広い視野	⑤問題解決	⑥プレゼン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	第4回達評委・他専攻等科目ポイント合計						第4回達評委・他専攻等科目→	0	単位		
	①専門基礎	②関連基礎	③現実問題	④広い視野	⑤問題解決	⑥プレゼン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

専攻開設科目ポイント表

作成日	20●●年2月1日		学年	M2	分野	環境・エネルギーリスク	氏名	●●●●	
開催区分→	第4回達成度評価委員会	取得単位	①専門基礎	②関連分野基礎	③現実問題の知識	④広い視野	⑤問題設定から解決まで	⑥プレゼンコミュニケーション能力	
第1回	a	専攻開設科目	11	3.6	2.18	3.01	3.01	0.0	0.0
	b	他専攻等科目	5	0.0	2.68	1.46	1.46	0.0	0.0
	c	第1回小計(a+b)	16	3.6	4.86	4.47	4.47	0.0	0.0
第2回	d	専攻開設科目	17	5.2	2.5	3.35	4.55	3.0	5.4
	e	他専攻等科目	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	f	第2回まで小計(c+d+e)	33	8.8	7.36	7.82	9.02	3.0	5.4
第3回	g	専攻開設科目	5	0.0	2.3	1.15	1.15	0.0	0.0
	h	他専攻等科目	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	i	第3回まで小計(f+g+h)	38	8.8	9.66	8.97	10.17	3.0	5.4
第4回	j	専攻開設科目	6	2.4	0.0	1.2	0.0	1.8	1.8
	k	他専攻等科目	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
a+b+d+e+g+h+j+k 総合計		44	11.2	9.66	10.17	10.17	4.8	7.2	
基準ポイント			8.0	5.0	6.0	6.0	4.0	6.0	
基準ポイントとの差異			3.2	4.66	4.17	4.17	0.8	1.2	

科目区分	科目名	科目番号	単位数	①専	②関	③現	④広	⑤問	⑥プ	第1回成績	第2回成績	第3回成績	第4回成績
共通科目	リスク工学前期特別演習Ⅰ (H22年度以前:リスク工学前期特別演習)	01CF001	1	0.5					0.5		A		
共通科目	リスク工学前期特別演習Ⅱ	01CF002	2	1.0					1.0				A
共通科目	リスク工学前期特別研究Ⅰ	01CF011	4	1.5		0.5		1.0	1.0		A		
共通科目	リスク工学前期特別研究Ⅱ	01CF012	4	1.0		1.0		1.5	0.5				A
共通科目	リスク工学前期特別研究Ⅱ (H22年度以前)		6	2.0		1.0		1.5	1.5				
共通科目	リスク工学グループ演習	01CF021	2				1.5	1.5	3.0		A		
共通科目	リスク工学概論	01CF022	1		0.4	0.3	0.3			A			
共通科目	リスク工学基礎 (H21年度:リスク・セキュリティ基礎)	01CF023	1		0.4	0.3	0.3				B		
共通科目	リスク工学インターンシップ	01CF031	1			0.3	0.3	0.4					
トータル	ソフトコンピューティング基礎論Ⅰ	01CF101	2		1.0	0.5	0.5						
トータル	ソフトコンピューティング基礎論Ⅱ	01CF102	2		1.0	0.5	0.5						
トータル	ソフトコンピューティング基礎論演習	01CF103	1		0.5	0.25	0.25				B		
トータル	確率システム論	01CF104	2		1.0	0.5	0.5						
トータル	ソフトデータ解析(平成23年度以前)	01CF105	2		1.0	0.5	0.5						
トータル	データマイニング工学(平成24年度以降)	01CF109	2		1.0	0.5	0.5						
トータル	システム信頼性特論	01CF106	2		1.0	0.5	0.5						
トータル	リスク認知論	01CF107	2		1.0	0.5	0.5			A			
トータル	異種情報統合論	01CF108	2		1.0	0.5	0.5						
サイバー	認証処理特論	01CF201	2		1.0	0.5	0.5						
サイバー	現代情報理論とネットワーク	01CF202	2		1.0	0.5	0.5					B	
サイバー	現代情報理論とネットワーク演習	01CF203	1		0.5	0.25	0.25						
サイバー	ネットワークセキュリティ特論Ⅰ	01CF204	2		1.0	0.5	0.5						
サイバー	ネットワークセキュリティ特論Ⅱ	01CF205	2		1.0	0.5	0.5						
サイバー	サイバースリスク特論 (H21年度:分散マルチメディアシステム特論)	01CF206	1		0.5	0.25	0.25						
サイバー	情報セキュリティ特論	01CF207	2		1.0	0.5	0.5					C	
都市	都市リスク管理特論	01CF301	2		1.0	0.5	0.5						
都市	都市機能リスク論	01CF302	2		1.0	0.5	0.5						
都市	都市構造システム論	01CF303	2		1.0	0.5	0.5						
都市	都市リスクコミュニケーション	01CF304	2		1.0	0.5	0.5				B		
都市	都市・地域解析学	01CF305	2		1.0	0.5	0.5						
都市	都市リスク分析演習	01CF306	2		1.0	0.5	0.5						
環境エネ	エネルギーリスク評価論	01CF401	2	1.0		0.5	0.5			B			
環境エネ	エネルギー学特論	01CF402	2	1.0		0.5	0.5			C			
環境エネ	エネルギー安全工学特論	01CF403	2	1.0		0.5	0.5			A			
環境エネ	エネルギーリスク解析演習	01CF404	1	0.5		0.25	0.25				A		
環境エネ	プロセスシステムリスク論	01CF405	2	1.0		0.5	0.5				A		
環境エネ	信頼性工学特論	01CF406	2	1.0		0.5	0.5				B		
分野共通	リスク工学前期特別講義(セキュリティ)	01CF902	1		0.5	0.25	0.25						
分野共通	リスク工学前期特別講義(リモートセンシング)	01CF903	1		0.5	0.25	0.25						
分野共通	リスク工学前期特別講義(ヒューマンファクター)	01CF904	1		0.5	0.25	0.25						
分野共通	リスク工学前期特別講義(信頼性・安全性)(H22年度)		1		0.5	0.25	0.25						
分野共通	リスク工学前期特別講義(リスク工学方法論)(H22年度)		1		0.5	0.25	0.25						
分野共通	リスク工学前期特別講義Ⅰ(H21年度)		1	0.5		0.25	0.25			A			
分野共通	リスク工学前期特別講義Ⅱ(H21年度)		1		0.5	0.25	0.25			B			
分野共通	リスク工学前期特別講義Ⅲ(H21年度)		1		0.5	0.25	0.25				A		
分野共通	リスク工学前期特別講義Ⅳ(H21年度)		1		0.5	0.25	0.25					B	

グラフ

氏名	●●●●	所属分野	環境・エネルギーリスク	日付	20●●/2/1
----	------	------	-------------	----	----------

第1回達成度評価委員会 取得ポイント

第1回	①専門基礎	②関連分野基礎	③現実問題の知識	④広い視野	⑤問題設定から解決まで	⑥プレゼン・コミュニケーション能力
	3.6	4.86	4.47	4.47	0.0	0.0
基準比	45.0	97.2	74.5	74.5	0.0	0.0

第2回達成度評価委員会 取得ポイント

第2回	①専門基礎	②関連分野基礎	③現実問題の知識	④広い視野	⑤問題設定から解決まで	⑥プレゼン・コミュニケーション能力
	8.8	7.36	7.82	9.02	3.0	5.4
基準比	110.0	147.2	130.3	150.3	75.0	90.0

第3回達成度評価委員会 取得ポイント

第3回	①専門基礎	②関連分野基礎	③現実問題の知識	④広い視野	⑤問題設定から解決まで	⑥プレゼン・コミュニケーション能力
	8.8	9.66	8.97	10.17	3.0	5.4
基準比	110.0	193.2	149.5	169.5	75.0	90.0

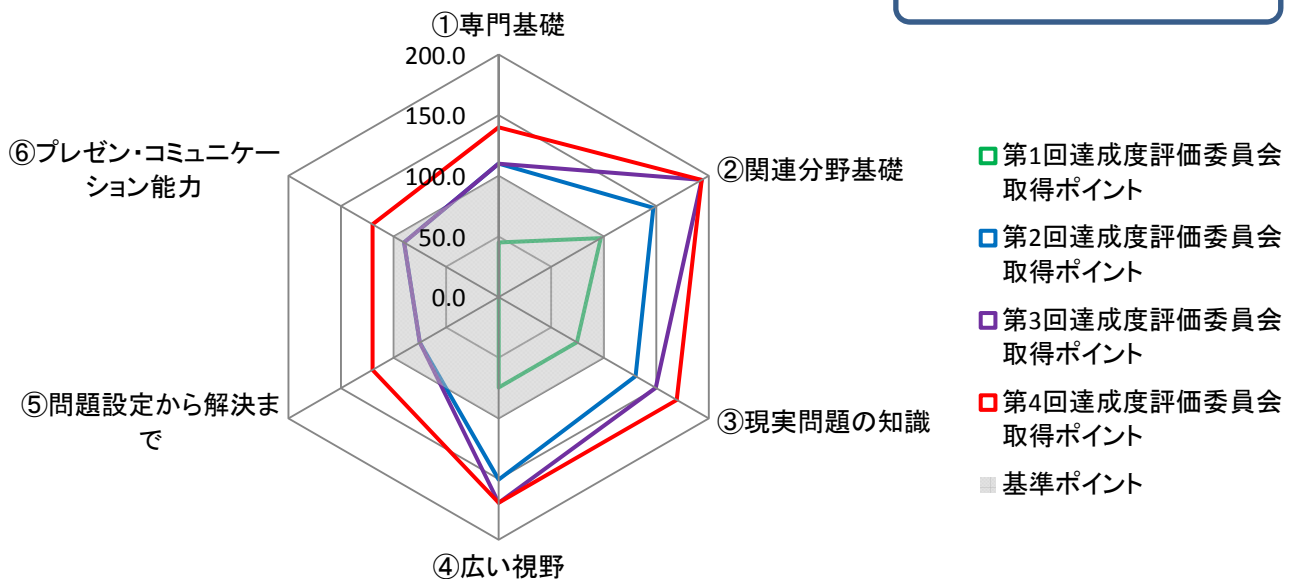
第4回達成度評価委員会 取得ポイント

第4回	①専門基礎	②関連分野基礎	③現実問題の知識	④広い視野	⑤問題設定から解決まで	⑥プレゼン・コミュニケーション能力
	11.2	9.66	10.17	10.17	4.8	7.2
基準比	140.0	193.2	169.5	169.5	120.0	120.0

基準ポイント

基準値	①専門基礎	②関連分野基礎	③現実問題の知識	④広い視野	⑤問題設定から解決まで	⑥プレゼン・コミュニケーション能力
	8.0	5.0	6.0	6.0	4.0	6.0
基準比	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

取得ポイント基準比の推移



他専攻・他研究科等の科目履修に係るポイント付与申請書1

分野	トータルリスクマネジメント	学年	M2	学生氏名	●●●●	達成度評価委員長	●●●●
----	---------------	----	----	------	------	----------	------

- (1)大学院共通科目・研究科共通科目・他研究科開設科目・他専攻開設科目を履修する場合は、この申請書によりポイント付与申請をする。
~~このうち、大学院共通科目・他研究科開設科目については、大学院教務へ「他研究科開設科目の履修について」も提出する。~~
- (2)大学院共通科目・研究科共通科目の申請：別紙「大学院・研究科共通科目ポイント表」に記載されている配分にて申請する。
- (3)上記以外の科目：申請科目が【A】専門基礎型、【B】関連基礎型、どちらに該当するか達成度評価委員長と相談の上申請する。
 【A】専門基礎型→①専門基礎：0.5 ③現実問題：0.25 ④広い視野：0.25 の配分に、単位数を乗じたものを記載。
 【B】関連基礎型→②関連基礎：0.5 ③現実問題：0.25 ④広い視野：0.25 の配分に、単位数を乗じたものを記載。
 【A】【B】どちらにも該当しないと思われる場合は、達成度評価委員長よりG Pコア (risk-gp-core@risk.tsukuba.ac.jp)宛に連絡する。
- (4)申請の流れ：①学生は達成度評価資料.xlsファイル全体を添付したメールを達成度評価委員長宛に送る。
 ②達成度評価委員長は申請内容をチェック後、G Pコアメーリングリスト宛に承認依頼メールを送る。
 ③承認された場合、G P事務室より承認のお知らせと処理済みの達成度評価資料.xlsがメール送信される。否認の場合は再提出。
 ④学生は、達成度評価委員会の前に、成績が出ている科目について成績を入力する。(ポイント表に自動的に反映される)

申請	区分選択	申請科目名					①専門基礎	②関連基礎	③現実問題	④広い視野	⑤問題解決	⑥プレゼン	申請日	成績		
	1	他専攻科目	宇宙エネルギー資源論 (構造エネルギー工学専攻)						1.0	0.5	0.5			申請	20●●年4月23日	A
科目番号		便覧P	開講学期	曜時限	単位数	申請ボ計	申請理由：研究雨に関連が深い内容の科目と思われるため					申請区分	承認	承認日	達評委員長承認済	専攻長承認済
		01CM423	312	2	集中以外	2	2.0					第1回				
2	大学院共通科目	リスクマネジメント序論						0.4	0.3	0.3			申請	20●●年4月26日	A	
	科目番号	便覧P	開講学期	曜時限	単位数	申請ボ計	申請理由：リスクマネジメントの基礎を学びたいため					申請区分	承認	承認日	達評委員長承認済	専攻長承認済
		01ZZ008	-	1	集中	1	1.0					第1回				
3	他専攻科目	パターン認識特論 (知能機能システム専攻)						1.0	0.5	0.5			申請	20●●年4月26日	B	
	科目番号	便覧P	開講学期	曜時限	単位数	申請ボ計	申請理由：研究に関連が深い内容の科目と思われるため					申請区分	承認	承認日	達評委員長承認済	専攻長承認済
		01CK404	309	2	集中以外	2	2.0					第1回				
4	未選択												申請		未選択	
	科目番号	便覧P	開講学期	曜時限	単位数	申請ボ計	申請理由：					申請区分	承認	承認日	達評委員長承認済	専攻長承認済
			未選択	未選択		0.0						未選択				
5	未選択												申請		未選択	
	科目番号	便覧P	開講学期	曜時限	単位数	申請ボ計	申請理由：					申請区分	承認	承認日	達評委員長承認済	専攻長承認済
			未選択	未選択		0.0						未選択				
6	未選択												申請		未選択	
	科目番号	便覧P	開講学期	曜時限	単位数	申請ボ計	申請理由：					申請区分	承認	承認日	達評委員長承認済	専攻長承認済
			未選択	未選択		0.0						未選択				
7	未選択												申請		未選択	
	科目番号	便覧P	開講学期	曜時限	単位数	申請ボ計	申請理由：					申請区分	承認	承認日	達評委員長承認済	専攻長承認済
			未選択	未選択		0.0						未選択				

申請 1 7 集計欄	第1回達評委・他専攻等科目ポイント合計						第1回達評委・他専攻等科目→	5	単位		
	①専門基礎	②関連基礎	③現実問題	④広い視野	⑤問題解決	⑥プレゼン				0.0	2.68
	第2回達評委・他専攻等科目ポイント合計						第2回達評委・他専攻等科目→	0	単位		
	①専門基礎	②関連基礎	③現実問題	④広い視野	⑤問題解決	⑥プレゼン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	第3回達評委・他専攻等科目ポイント合計						第3回達評委・他専攻等科目→	0	単位		
	①専門基礎	②関連基礎	③現実問題	④広い視野	⑤問題解決	⑥プレゼン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	第4回達評委・他専攻等科目ポイント合計						第4回達評委・他専攻等科目→	0	単位		
	①専門基礎	②関連基礎	③現実問題	④広い視野	⑤問題解決	⑥プレゼン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

専攻開設科目ポイント表

作成日	20●●年2月1日		学年	M2	分野	トータルリスクマネジメント	氏名	●●●●	
開催区分	第4回達成度評価委員会	取得単位	①専門基礎	②関連分野基礎	③現実問題の知識	④広い視野	⑤問題設定から解決まで	⑥プレゼンコミュニケーション能力	
第1回	a	専攻開設科目	7	3.6	0.48	2.16	2.16	0.0	0.0
	b	他専攻等科目	5	0.0	2.68	1.46	1.46	0.0	0.0
	c	第1回小計(a+b)	12	3.6	3.16	3.62	3.62	0.0	0.0
第2回	d	専攻開設科目	11	3.6	1.0	1.7	2.9	3.0	5.4
	e	他専攻等科目	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	f	第2回まで小計(c+d+e)	23	7.2	4.16	5.32	6.52	3.0	5.4
第3回	g	専攻開設科目	6	0.0	3.2	1.6	1.6	0.0	0.0
	h	他専攻等科目	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	i	第3回まで小計(f+g+h)	29	7.2	7.36	6.92	8.12	3.0	5.4
第4回	j	専攻開設科目	6	2.4	0.0	1.2	0.0	1.8	1.8
	k	他専攻等科目	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
a+b+d+e+g+h+j+k 総合計		35	9.6	7.36	8.12	8.12	4.8	7.2	
基準ポイント			8.0	5.0	6.0	6.0	4.0	6.0	
基準ポイントとの差異			1.6	2.36	2.12	2.12	0.8	1.2	

科目区分	科目名	科目番号	単位数	①専	②関	③現	④広	⑤問	⑥プ	第1回成績	第2回成績	第3回成績	第4回成績
共通科目	リスク工学前期特別演習Ⅰ (H22年度以前:リスク工学前期特別演習)	01CF001	1	0.5					0.5		A		
共通科目	リスク工学前期特別演習Ⅱ	01CF002	2	1.0					1.0				A
共通科目	リスク工学前期特別研究Ⅰ	01CF011	4	1.5		0.5		1.0	1.0		A		
共通科目	リスク工学前期特別研究Ⅱ	01CF012	4	1.0		1.0		1.5	0.5				A
共通科目	リスク工学前期特別研究Ⅱ (H22年度以前)		6	2.0		1.0		1.5	1.5				
共通科目	リスク工学グループ演習	01CF021	2				1.5	1.5	3.0		A		
共通科目	リスク工学概論	01CF022	1		0.4	0.3	0.3			A			
共通科目	リスク工学基礎 (H21年度:リスク・セキュリティ基礎)	01CF023	1		0.4	0.3	0.3						
共通科目	リスク工学インターンシップ	01CF031	1			0.3	0.3	0.4					
トータル	ソフトコンピューティング基礎論Ⅰ	01CF101	2	1.0		0.5	0.5			A			
トータル	ソフトコンピューティング基礎論Ⅱ	01CF102	2	1.0		0.5	0.5			A			
トータル	ソフトコンピューティング基礎論演習	01CF103	1	0.5		0.25	0.25				A		
トータル	確率システム論	01CF104	2	1.0		0.5	0.5						
トータル	ソフトデータ解析(平成23年度以前)	01CF105	2	1.0		0.5	0.5						
トータル	データマイニング工学(平成24年度以降)	01CF109	2	1.0		0.5	0.5						
トータル	システム信頼性特論	01CF106	2	1.0		0.5	0.5						
トータル	リスク認知論	01CF107	2	1.0		0.5	0.5			A			
トータル	異種情報統合論	01CF108	2	1.0		0.5	0.5						
サイバー	認証処理特論	01CF201	2		1.0	0.5	0.5						
サイバー	現代情報理論とネットワーク	01CF202	2		1.0	0.5	0.5					A	
サイバー	現代情報理論とネットワーク演習	01CF203	1		0.5	0.25	0.25						
サイバー	ネットワークセキュリティ特論Ⅰ	01CF204	2		1.0	0.5	0.5						
サイバー	ネットワークセキュリティ特論Ⅱ	01CF205	2		1.0	0.5	0.5						
サイバー	サイバーリスク特論 (H21年度:分散マルチメディアシステム特論)	01CF206	1		0.5	0.25	0.25						
サイバー	情報セキュリティ特論	01CF207	2		1.0	0.5	0.5					C	
都市	都市リスク管理特論	01CF301	2		1.0	0.5	0.5						
都市	都市機能リスク論	01CF302	2		1.0	0.5	0.5						
都市	都市構造システム論	01CF303	2		1.0	0.5	0.5						
都市	都市リスクコミュニケーション	01CF304	2		1.0	0.5	0.5				B		
都市	都市・地域解析学	01CF305	2		1.0	0.5	0.5						
都市	都市リスク分析演習	01CF306	2		1.0	0.5	0.5						
環境エネ	エネルギーリスク評価論	01CF401	2		1.0	0.5	0.5						
環境エネ	エネルギー学特論	01CF402	2		1.0	0.5	0.5					A	
環境エネ	エネルギー安全工学特論	01CF403	2		1.0	0.5	0.5						
環境エネ	エネルギーリスク解析演習	01CF404	1		0.5	0.25	0.25						
環境エネ	プロセスシステムリスク論	01CF405	2		1.0	0.5	0.5						
環境エネ	信頼性工学特論	01CF406	2		1.0	0.5	0.5				D		
分野共通	リスク工学前期特別講義(セキュリティ)	01CF902	1		0.5	0.25	0.25						
分野共通	リスク工学前期特別講義(リモートセンシング)	01CF903	1		0.5	0.25	0.25						
分野共通	リスク工学前期特別講義(ヒューマンファクター)	01CF904	1		0.5	0.25	0.25						
分野共通	リスク工学前期特別講義(信頼性・安全性)(H22年度)		1		0.5	0.25	0.25						
分野共通	リスク工学前期特別講義(リスク工学方法論)(H22年度)		1		0.5	0.25	0.25						
分野共通	リスク工学前期特別講義Ⅰ(H21年度)		1		0.5	0.25	0.25						
分野共通	リスク工学前期特別講義Ⅱ(H21年度)		1		0.5	0.25	0.25						
分野共通	リスク工学前期特別講義Ⅲ(H21年度)		1	0.5		0.25	0.25						
分野共通	リスク工学前期特別講義Ⅳ(H21年度)		1	0.5		0.25	0.25				A		

グラフ

氏名	●●●●	所属分野	トータルリスキマネジメン	日付	20●●/2/1
----	------	------	--------------	----	----------

第1回達成度評価委員会 取得ポイント

第1回	①専門基礎	②関連分野基礎	③現実問題の知識	④広い視野	⑤問題設定から解決まで	⑥プレゼン・コミュニケーション能力
	3.6	3.16	3.62	3.62	0.0	0.0
基準比	45.0	63.2	60.3	60.3	0.0	0.0

第2回達成度評価委員会 取得ポイント

第2回	①専門基礎	②関連分野基礎	③現実問題の知識	④広い視野	⑤問題設定から解決まで	⑥プレゼン・コミュニケーション能力
	7.2	4.16	5.32	6.52	3.0	5.4
基準比	90.0	83.2	88.7	108.7	75.0	90.0

第3回達成度評価委員会 取得ポイント

第3回	①専門基礎	②関連分野基礎	③現実問題の知識	④広い視野	⑤問題設定から解決まで	⑥プレゼン・コミュニケーション能力
	7.2	7.36	6.92	8.12	3.0	5.4
基準比	90.0	147.2	115.3	135.3	75.0	90.0

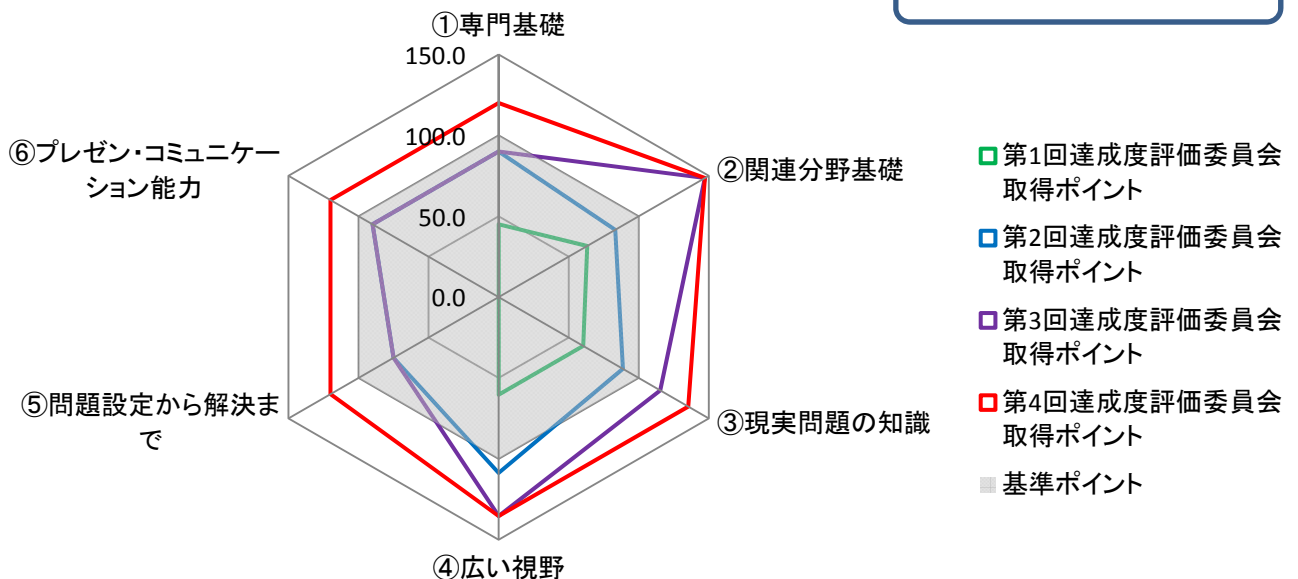
第4回達成度評価委員会 取得ポイント

第4回	①専門基礎	②関連分野基礎	③現実問題の知識	④広い視野	⑤問題設定から解決まで	⑥プレゼン・コミュニケーション能力
	9.6	7.36	8.12	8.12	4.8	7.2
基準比	120.0	147.2	135.3	135.3	120.0	120.0

基準ポイント

基準値	①専門基礎	②関連分野基礎	③現実問題の知識	④広い視野	⑤問題設定から解決まで	⑥プレゼン・コミュニケーション能力
	8.0	5.0	6.0	6.0	4.0	6.0
基準比	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

取得ポイント基準比の推移



他専攻・他研究科等の科目履修に係るポイント付与申請書 1

分野	サイバーリスク	学年	M2	学生氏名	●●●●	達成度評価委員長	●●●●
----	---------	----	----	------	------	----------	------

- (1) 大学院共通科目・研究科共通科目・他研究科開設科目・他専攻開設科目を履修する場合は、この申請書によりポイント付与申請をする。
~~このうち、大学院共通科目・他研究科開設科目については、大学院教務へ「他研究科開設科目の履修について」も提出する。~~
- (2) 大学院共通科目・研究科共通科目の申請：別紙「大学院・研究科共通科目ポイント表」に記載されている配分にて申請する。
- (3) 上記以外の科目：申請科目が【A】専門基礎型、【B】関連基礎型、どちらに該当するか達成度評価委員長と相談の上申請する。
 【A】専門基礎型→①専門基礎：0.5 ③現実問題：0.25 ④広い視野：0.25 の配分に、単位数を乗じたものを記載。
 【B】関連基礎型→②関連基礎：0.5 ③現実問題：0.25 ④広い視野：0.25 の配分に、単位数を乗じたものを記載。
 【A】【B】どちらにも該当しないと思われる場合は、達成度評価委員長よりG Pコア (risk-gp-core@risk.tsukuba.ac.jp)宛に連絡する。
- (4) 申請の流れ：①学生は達成度評価資料.xlsファイル全体を添付したメールを達成度評価委員長宛に送る。
 ②達成度評価委員長は申請内容をチェック後、G Pコアメンバーリスト宛に承認依頼メールを送る。
 ③承認された場合、G P事務室より承認のお知らせと処理済みの達成度評価資料.xlsがメール送信される。否認の場合は再提出。
 ④学生は、達成度評価委員会の前に、成績が出ている科目について成績を入力する。(ポイント表に自動的に反映される)

申請	区分選択		申請科目名				①専門基礎	②関連基礎	③現実問題	④広い視野	⑤問題解決	⑥プレゼン	申請日			成績	
	他専攻科目	大学院共通科目	科目番号	便覧P	開講学期	曜時限	単位数	申請ボ計	申請理由				申請区分	承認	承認日	達評委員長承認済	専攻長承認済
1	他専攻科目		情報システムデザイン論 (コンピュータサイエンス専攻)				1.0		0.5	0.5			申請	20●●●年4月23日			A
			01CH207	313	2	集中以外	2	2.0	研究の応用として関連の深い内容と思われるため				第1回	承認	4/23	達評委員長承認済	専攻長承認済
2	他専攻科目		セキュリティ機構論 (コンピュータサイエンス専攻)				1.0			0.5	0.5		申請	20●●●年4月26日			B
			01CH208	313	2	集中以外	2	2.0	研究に関連が深い内容の科目と思われるため				第1回	承認	4/26	達評委員長承認済	専攻長承認済
3	大学院共通科目		企業と技術者の倫理				0.8		0.6	0.6			申請	20●●●年4月26日			A
			01ZZ102	90	1	集中	2	2.0	技術者の倫理を学び、社会貢献出来る技術者になりたい為				第3回	承認	4/26	達評委員長承認済	専攻長承認済
4	未選択												申請				未選択
								0.0					未選択	承認	承認日	達評委員長承認済	専攻長承認済
5	未選択												申請				未選択
								0.0					未選択	承認	承認日	達評委員長承認済	専攻長承認済
6	未選択												申請				未選択
								0.0					未選択	承認	承認日	達評委員長承認済	専攻長承認済
7	未選択												申請				未選択
								0.0					未選択	承認	承認日	達評委員長承認済	専攻長承認済

申請 1 7 集計欄	第1回達評委・他専攻等科目ポイント合計		①専門基礎	②関連基礎	③現実問題	④広い視野	⑤問題解決	⑥プレゼン	第1回達評委・他専攻等科目→	4	単位
	第2回達評委・他専攻等科目ポイント合計		①専門基礎	②関連基礎	③現実問題	④広い視野	⑤問題解決	⑥プレゼン			
	第3回達評委・他専攻等科目ポイント合計		0.0	0.96	0.72	0.72	0.0	0.0	第3回達評委・他専攻等科目→	2	単位
	第4回達評委・他専攻等科目ポイント合計		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	第4回達評委・他専攻等科目→	0	単位

専攻開設科目ポイント表

作成日	20●●年2月1日		学年	M2	分野	サイバーリスク	氏名	●●●●	
開催区分→	第4回達成度評価委員会	取得単位	①専門基礎	②関連分野基礎	③現実問題の知識	④広い視野	⑤問題設定から解決まで	⑥プレゼンコミュニケーション能力	
第1回	a	専攻開設科目	19	5.0	4.52	4.94	4.94	0.0	0.0
	b	他専攻等科目	4	1.0	1.2	1.1	1.1	0.0	0.0
	c	第1回小計(a+b)	23	6.0	5.72	6.04	6.04	0.0	0.0
第2回	d	専攻開設科目	10	2.4	0.8	1.36	2.26	3.18	4.8
	e	他専攻等科目	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	f	第2回まで小計(c+d+e)	33	8.4	6.52	7.4	8.3	3.18	4.8
第3回	g	専攻開設科目	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	h	他専攻等科目	2	0.0	0.96	0.72	0.72	0.0	0.0
	i	第3回まで小計(f+g+h)	35	8.4	7.48	8.12	9.02	3.18	4.8
第4回	j	専攻開設科目	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	k	他専攻等科目	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
a+b+d+e+g+h+j+k 総合計		35	8.4	7.48	8.12	9.02	3.18	4.8	
基準ポイント			8.0	5.0	6.0	6.0	4.0	6.0	
基準ポイントとの差異			0.4	2.48	2.12	3.02	-0.82	-1.20	

科目区分	科目名	科目番号	単位数	①専	②関	③現	④広	⑤問	⑥プ	第1回成績	第2回成績	第3回成績	第4回成績
共通科目	リスク工学前期特別演習Ⅰ (H22年度以前:リスク工学前期特別演習)	01CF001	1	0.5					0.5		A		
共通科目	リスク工学前期特別演習Ⅱ	01CF002	2	1.0					1.0				
共通科目	リスク工学前期特別研究Ⅰ	01CF011	4	1.5		0.5		1.0	1.0		A		
共通科目	リスク工学前期特別研究Ⅱ	01CF012	4	1.0		1.0		1.5	0.5				
共通科目	リスク工学前期特別研究Ⅱ(H22年度以前)		6	2.0		1.0		1.5	1.5				
共通科目	リスク工学グループ演習	01CF021	2				1.5	1.5	3.0		B		
共通科目	リスク工学概論	01CF022	1		0.4	0.3	0.3			B			
共通科目	リスク工学基礎 (H21年度:リスク・セキュリティ基礎)	01CF023	1		0.4	0.3	0.3			C			
共通科目	リスク工学インターンシップ	01CF031	1			0.3	0.3	0.4			A		
トータル	ソフトコンピューティング基礎論Ⅰ	01CF101	2		1.0	0.5	0.5			B			
トータル	ソフトコンピューティング基礎論Ⅱ	01CF102	2		1.0	0.5	0.5			B			
トータル	ソフトコンピューティング基礎論演習	01CF103	1		0.5	0.25	0.25						
トータル	確率システム論	01CF104	2		1.0	0.5	0.5			C			
トータル	ソフトデータ解析(平成23年度以前)	01CF105	2		1.0	0.5	0.5						
トータル	データマイニング工学(平成24年度以降)	01CF109	2		1.0	0.5	0.5						
トータル	システム信頼性特論	01CF106	2		1.0	0.5	0.5						
トータル	リスク認知論	01CF107	2		1.0	0.5	0.5						
トータル	異種情報統合論	01CF108	2		1.0	0.5	0.5						
サイバー	認証処理特論	01CF201	2	1.0		0.5	0.5			A			
サイバー	現代情報理論とネットワーク	01CF202	2	1.0		0.5	0.5			A			
サイバー	現代情報理論とネットワーク演習	01CF203	1	0.5		0.25	0.25						
サイバー	ネットワークセキュリティ特論Ⅰ	01CF204	2	1.0		0.5	0.5						
サイバー	ネットワークセキュリティ特論Ⅱ	01CF205	2	1.0		0.5	0.5			B			
サイバー	サイバーリスク特論 (H21年度:分散マルチメディアシステム特論)	01CF206	1	0.5		0.25	0.25			A			
サイバー	情報セキュリティ特論	01CF207	2	1.0		0.5	0.5			B			
都市	都市リスク管理特論	01CF301	2		1.0	0.5	0.5						
都市	都市機能リスク論	01CF302	2		1.0	0.5	0.5						
都市	都市構造システム論	01CF303	2		1.0	0.5	0.5						
都市	都市リスクコミュニケーション	01CF304	2		1.0	0.5	0.5				C		
都市	都市・地域解析学	01CF305	2		1.0	0.5	0.5						
都市	都市リスク分析演習	01CF306	2		1.0	0.5	0.5						
環境エネ	エネルギーリスク評価論	01CF401	2		1.0	0.5	0.5						
環境エネ	エネルギー学特論	01CF402	2		1.0	0.5	0.5			B			
環境エネ	エネルギー安全工学特論	01CF403	2		1.0	0.5	0.5				D		
環境エネ	エネルギーリスク解析演習	01CF404	1		0.5	0.25	0.25						
環境エネ	プロセスシステムリスク論	01CF405	2		1.0	0.5	0.5						
環境エネ	信頼性工学特論	01CF406	2		1.0	0.5	0.5						
分野共通	リスク工学前期特別講義(セキュリティ)	01CF902	1		0.5	0.25	0.25						
分野共通	リスク工学前期特別講義(リモートセンシング)	01CF903	1		0.5	0.25	0.25						
分野共通	リスク工学前期特別講義(ヒューマンファクター)	01CF904	1		0.5	0.25	0.25						
分野共通	リスク工学前期特別講義(信頼性・安全性)(H22年度)		1		0.5	0.25	0.25						
分野共通	リスク工学前期特別講義(リスク工学方法論)(H22年度)		1		0.5	0.25	0.25						
分野共通	リスク工学前期特別講義Ⅰ(H21年度)		1		0.5	0.25	0.25						
分野共通	リスク工学前期特別講義Ⅱ(H21年度)		1	0.5		0.25	0.25						
分野共通	リスク工学前期特別講義Ⅲ(H21年度)		1		0.5	0.25	0.25						
分野共通	リスク工学前期特別講義Ⅳ(H21年度)		1	41	0.5	0.25	0.25						

グラフ

氏名	●●●●	所属分野	サイバーリス ク	日付	20●●/2/1
----	------	------	-------------	----	----------

第1回達成度評価委員会 取得ポイント

第1回	①専門基礎	②関連分野基礎	③現実問題の知識	④広い視野	⑤問題設定から解決まで	⑥プレゼン・コミュニケーション能力
	6.0	5.72	6.04	6.04	0.0	0.0
基準比	75.0	114.4	100.7	100.7	0.0	0.0

第2回達成度評価委員会 取得ポイント

第2回	①専門基礎	②関連分野基礎	③現実問題の知識	④広い視野	⑤問題設定から解決まで	⑥プレゼン・コミュニケーション能力
	8.4	6.52	7.4	8.3	3.18	4.8
基準比	105.0	130.4	123.3	138.3	79.5	80.0

第3回達成度評価委員会 取得ポイント

第3回	①専門基礎	②関連分野基礎	③現実問題の知識	④広い視野	⑤問題設定から解決まで	⑥プレゼン・コミュニケーション能力
	8.4	7.48	8.12	9.02	3.18	4.8
基準比	105.0	149.6	135.3	150.3	79.5	80.0

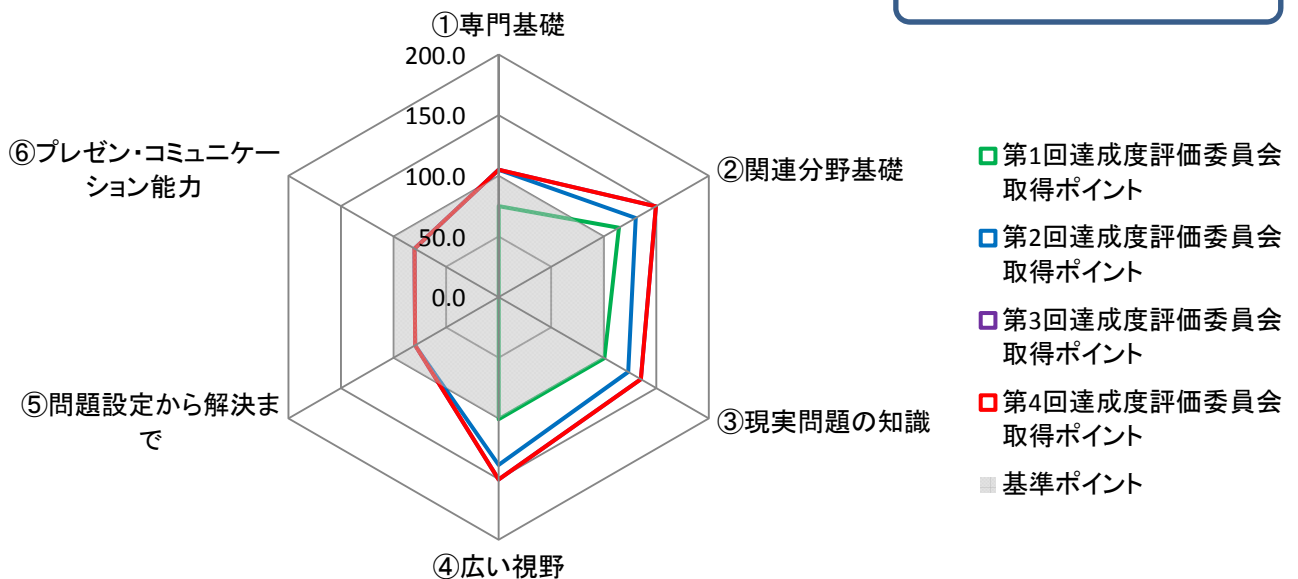
第4回達成度評価委員会 取得ポイント

第4回	①専門基礎	②関連分野基礎	③現実問題の知識	④広い視野	⑤問題設定から解決まで	⑥プレゼン・コミュニケーション能力
	8.4	7.48	8.12	9.02	3.18	4.8
基準比	105.0	149.6	135.3	150.3	79.5	80.0

基準ポイント

基準値	①専門基礎	②関連分野基礎	③現実問題の知識	④広い視野	⑤問題設定から解決まで	⑥プレゼン・コミュニケーション能力
	8.0	5.0	6.0	6.0	4.0	6.0
基準比	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

取得ポイント基準比の推移



他専攻・他研究科等の科目履修に係るポイント付与申請書1

分野	都市リスク	学年	M2	学生氏名	●●●●	達成度評価委員長	○○○○
----	-------	----	----	------	------	----------	------

- (1)大学院共通科目・研究科共通科目・他研究科開設科目・他専攻開設科目を履修する場合は、この申請書によりポイント付与申請をする。
~~このうち、大学院共通科目・他研究科開設科目については、大学院教務へ「他研究科開設科目の履修について」も提出する。~~
- (2)大学院共通科目・研究科共通科目の申請：別紙「大学院・研究科共通科目ポイント表」に記載されている配分にて申請する。
- (3)上記以外の科目：申請科目が【A】専門基礎型、【B】関連基礎型、どちらに該当するか達成度評価委員長と相談の上申請する。
 【A】専門基礎型→①専門基礎：0.5 ③現実問題：0.25 ④広い視野：0.25 の配分に、単位数を乗じたものを記載。
 【B】関連基礎型→②関連基礎：0.5 ③現実問題：0.25 ④広い視野：0.25 の配分に、単位数を乗じたものを記載。
 【A】【B】どちらにも該当しないと思われる場合は、達成度評価委員長よりG Pコア (risk-gp-core@risk.tsukuba.ac.jp)宛に連絡する。
- (4)申請の流れ：①学生は達成度評価資料.xlsファイル全体を添付したメールを達成度評価委員長宛に送る。
 ②達成度評価委員長は申請内容をチェック後、G Pコアメーリングリスト宛に承認依頼メールを送る。
 ③承認された場合、G P事務室より承認のお知らせと処理済みの達成度評価資料.xlsがメール送信される。否認の場合は再提出。
 ④学生は、達成度評価委員会の前に、成績が出ている科目について成績を入力する。(ポイント表に自動的に反映される)

申請	区分選択		申請科目名				①専門基礎	②関連基礎	③現実問題	④広い視野	⑤問題解決	⑥プレゼン	申請日	成績	
	1	他専攻科目		空間情報科学 (社会システム工学専攻)					1.0	0.5	0.5			申請	20●●●年4月23日
科目番号		便覧P	開講学期	曜時限	単位数	申請ボ計	申請理由： 研究に関連が深い内容の科目と思われる為				申請区分	承認	承認日	達評委員長承認済	専攻長承認済
		01CB321	P287	1	集中以外	2	2.0					第1回			
2	他専攻科目		特別講義Ⅰ(都市計画) (社会システム工学専攻)					0.5	0.25	0.25			申請	20●●●年4月26日	A
	科目番号	便覧P	開講学期	曜時限	単位数	申請ボ計	申請理由： 研究に関連が深い内容の科目と思われる為				申請区分	承認	承認日	達評委員長承認済	専攻長承認済
		01CB437	P288	未選択	集中	1	1.0					第1回			
3	他専攻科目		特別講義Ⅱ(都市計画) (社会システム工学専攻)					0.5	0.25	0.25			申請	20●●●年4月27日	A
	科目番号	便覧P	開講学期	曜時限	単位数	申請ボ計	申請理由： 研究に関連が深い内容の科目と思われる為				申請区分	承認	承認日	達評委員長承認済	専攻長承認済
		01CB438	P288	未選択	集中	1	1.0					第3回			
4	他専攻科目		MPP特講Ⅳ (経営・政策科学専攻)					0.5	0.25	0.25			申請	20●●●年4月27日	A
	科目番号	便覧P	開講学期	曜時限	単位数	申請ボ計	申請理由： 研究に関連が深い内容の科目と思われる為				申請区分	承認	承認日	達評委員長承認済	専攻長承認済
		01CD274	P294	1	集中	1	1.0					第3回			
5	大学院共通科目		科学英語論文ライティング -プラクティス									1.0	申請	20●●●年4月27日	C
	科目番号	便覧P	開講学期	曜時限	単位数	申請ボ計	申請理由： 英語のスキルを身につける為				申請区分	承認	承認日	達評委員長承認済	専攻長承認済
		01ZZ017	-	1	集中	1	1.0					第3回			
6	未選択												申請		未選択
	科目番号	便覧P	開講学期	曜時限	単位数	申請ボ計	申請理由：				申請区分	承認	承認日	達評委員長承認済	専攻長承認済
			未選択	未選択		0.0						未選択			
7	未選択												申請		未選択
	科目番号	便覧P	開講学期	曜時限	単位数	申請ボ計	申請理由：				申請区分	承認	承認日	達評委員長承認済	専攻長承認済
			未選択	未選択		0.0						未選択			

申請 1 7 集計欄	第1回達評委・他専攻等科目ポイント合計		①専門基礎	②関連基礎	③現実問題	④広い視野	⑤問題解決	⑥プレゼン	第1回達評委・他専攻等科目→	3	単位
			0.0	1.6	0.8	0.8	0.0	0.0			
	第2回達評委・他専攻等科目ポイント合計		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	第2回達評委・他専攻等科目→	0	単位
	第3回達評委・他専攻等科目ポイント合計		0.0	1.2	0.6	0.6	0.0	0.8	第3回達評委・他専攻等科目→	3	単位
	第4回達評委・他専攻等科目ポイント合計		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	第4回達評委・他専攻等科目→	0	単位

専攻開設科目ポイント表

作成日	20●●年2月1日	学年	M2	分野	都市リスク	氏名	●●●●	
開催区分	第4回達成度評価委員会	取得単位	①専門基礎	②関連分野基礎	③現実問題の知識	④広い視野	⑤問題設定から解決まで	⑥プレゼンコミュニケーション能力
第1回	a 専攻開設科目	15	3.4	4.56	4.22	4.22	0.0	0.0
	b 他専攻等科目	3	0.0	1.6	0.8	0.8	0.0	0.0
	c 第1回小計(a+b)	18	3.4	6.16	5.02	5.02	0.0	0.0
第2回	d 専攻開設科目	11	4.6	0.0	1.7	2.9	3.0	5.4
	e 他専攻等科目	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	f 第2回まで小計(c+d+e)	29	8.0	6.16	6.72	7.92	3.0	5.4
第3回	g 専攻開設科目	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	h 他専攻等科目	3	0.0	1.2	0.6	0.6	0.0	0.8
	i 第3回まで小計(f+g+h)	32	8.0	7.36	7.32	8.52	3.0	6.2
第4回	j 専攻開設科目	6	2.4	0.0	1.2	0.0	1.8	1.8
	k 他専攻等科目	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
a+b+d+e+g+h+j+k 総合計		38	10.4	7.36	8.52	8.52	4.8	8.0
基準ポイント			8.0	5.0	6.0	6.0	4.0	6.0
基準ポイントとの差異			2.4	2.36	2.52	2.52	0.8	2.0

科目区分	科目名	科目番号	単位数	①専	②関	③現	④広	⑤問	⑥プ	第1回成績	第2回成績	第3回成績	第4回成績
共通科目	リスク工学前期特別演習Ⅰ (H22年度以前:リスク工学前期特別演習)	01CF001	1	0.5					0.5		A		
共通科目	リスク工学前期特別演習Ⅱ	01CF002	2	1.0					1.0				A
共通科目	リスク工学前期特別研究Ⅰ	01CF011	4	1.5		0.5		1.0	1.0		A		
共通科目	リスク工学前期特別研究Ⅱ	01CF012	4	1.0		1.0		1.5	0.5				A
共通科目	リスク工学前期特別研究Ⅱ (H22年度以前)		6	2.0		1.0		1.5	1.5				
共通科目	リスク工学グループ演習	01CF021	2				1.5	1.5	3.0		A		
共通科目	リスク工学概論	01CF022	1		0.4	0.3	0.3			A			
共通科目	リスク工学基礎 (H21年度:リスク・セキュリティ基礎)	01CF023	1		0.4	0.3	0.3			A			
共通科目	リスク工学インターンシップ	01CF031	1			0.3	0.3	0.4					
トータル	ソフトコンピューティング基礎論Ⅰ	01CF101	2		1.0	0.5	0.5			A			
トータル	ソフトコンピューティング基礎論Ⅱ	01CF102	2		1.0	0.5	0.5						
トータル	ソフトコンピューティング基礎論演習	01CF103	1		0.5	0.25	0.25						
トータル	確率システム論	01CF104	2		1.0	0.5	0.5			D			
トータル	ソフトデータ解析(平成23年度以前)	01CF105	2		1.0	0.5	0.5						
トータル	データマイニング工学(平成24年度以降)	01CF109	2		1.0	0.5	0.5						
トータル	システム信頼性特論	01CF106	2		1.0	0.5	0.5						
トータル	リスク認知論	01CF107	2		1.0	0.5	0.5			B			
トータル	異種情報統合論	01CF108	2		1.0	0.5	0.5						
サイバー	認証処理特論	01CF201	2		1.0	0.5	0.5			C			
サイバー	現代情報理論とネットワーク	01CF202	2		1.0	0.5	0.5						
サイバー	現代情報理論とネットワーク演習	01CF203	1		0.5	0.25	0.25						
サイバー	ネットワークセキュリティ特論Ⅰ	01CF204	2		1.0	0.5	0.5						
サイバー	ネットワークセキュリティ特論Ⅱ	01CF205	2		1.0	0.5	0.5						
サイバー	サイバースリスク特論 (H21年度:分散マルチメディアシステム特論)	01CF206	1		0.5	0.25	0.25						
サイバー	情報セキュリティ特論	01CF207	2		1.0	0.5	0.5						
都市	都市リスク管理特論	01CF301	2	1.0		0.5	0.5			A			
都市	都市機能リスク論	01CF302	2	1.0		0.5	0.5			A			
都市	都市構造システム論	01CF303	2	1.0		0.5	0.5						
都市	都市リスクコミュニケーション	01CF304	2	1.0		0.5	0.5				A		
都市	都市・地域解析学	01CF305	2	1.0		0.5	0.5			B			
都市	都市リスク分析演習	01CF306	2	1.0		0.5	0.5				B		
環境エネ	エネルギーリスク評価論	01CF401	2		1.0	0.5	0.5						
環境エネ	エネルギー学特論	01CF402	2		1.0	0.5	0.5						
環境エネ	エネルギー安全工学特論	01CF403	2		1.0	0.5	0.5						
環境エネ	エネルギーリスク解析演習	01CF404	1		0.5	0.25	0.25						
環境エネ	プロセスシステムリスク論	01CF405	2		1.0	0.5	0.5						
環境エネ	信頼性工学特論	01CF406	2		1.0	0.5	0.5						
分野共通	リスク工学前期特別講義(セキュリティ)	01CF902	1		0.5	0.25	0.25						
分野共通	リスク工学前期特別講義(リモートセンシング)	01CF903	1		0.5	0.25	0.25						
分野共通	リスク工学前期特別講義(ヒューマンファクター)	01CF904	1		0.5	0.25	0.25						
分野共通	リスク工学前期特別講義(信頼性・安全性)(H22年度)		1		0.5	0.25	0.25						
分野共通	リスク工学前期特別講義(リスク工学方法論)(H22年度)		1		0.5	0.25	0.25						
分野共通	リスク工学前期特別講義Ⅰ(H21年度)		1		0.5	0.25	0.25			A			
分野共通	リスク工学前期特別講義Ⅱ(H21年度)		1		0.5	0.25	0.25						
分野共通	リスク工学前期特別講義Ⅲ(H21年度)		1		0.5	0.25	0.25						
分野共通	リスク工学前期特別講義Ⅳ(H21年度)		1		0.5	0.25	0.25						

グラフ

氏名	●●●●	所属分野	都市リスク	日付	20●●/2/4
----	------	------	-------	----	----------

第1回達成度評価委員会 取得ポイント

第1回	①専門基礎	②関連分野基礎	③現実問題の知識	④広い視野	⑤問題設定から解決まで	⑥プレゼン・コミュニケーション能力
	3.4	6.16	5.02	5.02	0.0	0.0
基準比	42.5	123.2	83.7	83.7	0.0	0.0

第2回達成度評価委員会 取得ポイント

第2回	①専門基礎	②関連分野基礎	③現実問題の知識	④広い視野	⑤問題設定から解決まで	⑥プレゼン・コミュニケーション能力
	8.0	6.16	6.72	7.92	3.0	5.4
基準比	100.0	123.2	112.0	132.0	75.0	90.0

第3回達成度評価委員会 取得ポイント

第3回	①専門基礎	②関連分野基礎	③現実問題の知識	④広い視野	⑤問題設定から解決まで	⑥プレゼン・コミュニケーション能力
	8.0	7.36	7.32	8.52	3.0	6.2
基準比	100.0	147.2	122.0	142.0	75.0	103.3

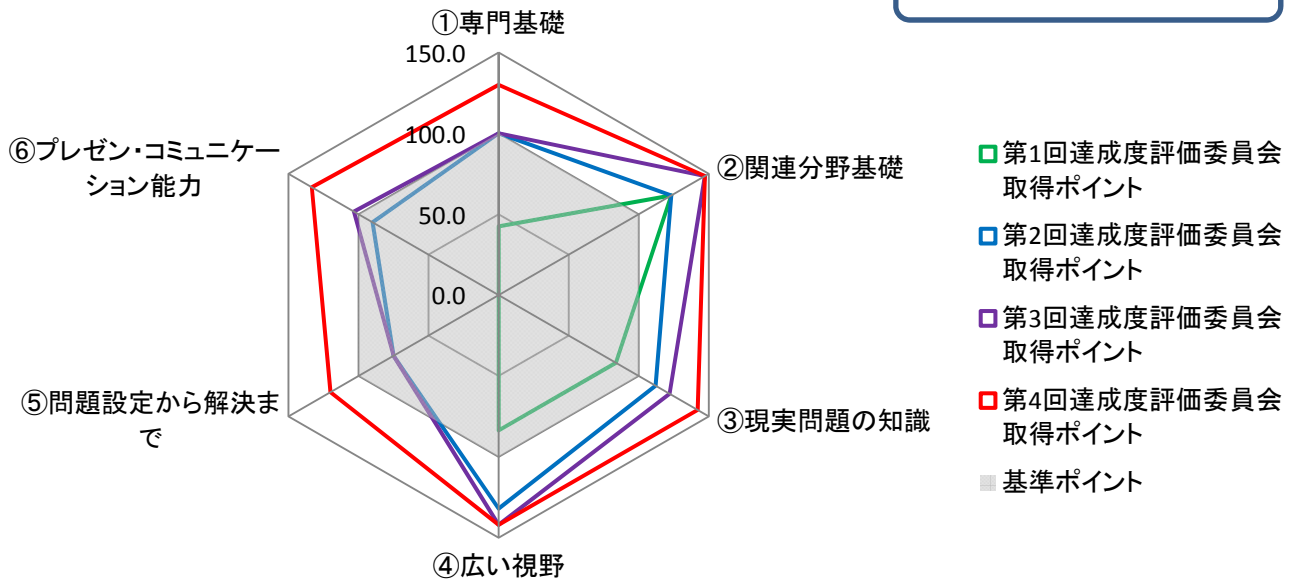
第4回達成度評価委員会 取得ポイント

第4回	①専門基礎	②関連分野基礎	③現実問題の知識	④広い視野	⑤問題設定から解決まで	⑥プレゼン・コミュニケーション能力
	10.4	7.36	8.52	8.52	4.8	8.0
基準比	130.0	147.2	142.0	142.0	120.0	133.3

基準ポイント

基準値	①専門基礎	②関連分野基礎	③現実問題の知識	④広い視野	⑤問題設定から解決まで	⑥プレゼン・コミュニケーション能力
	8.0	5.0	6.0	6.0	4.0	6.0
基準比	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

取得ポイント基準比の推移



6 達成度評価システムの基本的理念

博士前期課程における達成度評価に関する申合せ

1. 達成度評価委員会と達成度評価の実施・承認

1) 達成度評価委員会

達成度評価委員会は、以下に述べる達成度評価を実施する目的で、専攻によって設置され、学生毎に定められる。

2) 達成度評価の実施・承認

以下に述べる達成度評価は達成度評価委員会により実施され、専攻長によって承認される。

3) 達成度評価委員会の構成

達成度評価委員長 1 名および委員 2～3 名から構成する。

2. 達成度評価の課程修了における位置づけ

達成度評価結果は、修士論文審査とともに行われる最終試験の一部として取り扱う。最終試験に合格するためには、原則として達成度評価結果がすべての項目について可とされる必要がある。

3. 達成度評価の最終試験時における可否の判定

可否の判定は第 4 項に示す自己評価書に対する専攻の評価結果によって行う。

4. 自己評価書と自己評価書に対する専攻の評価

- 自己評価書は、科目取得では計りきれない勉学状況の達成度について、自己の学修状況をアピールするために学生自ら申告するものである。自己評価書の中では、科目ポイント（第 5 項参照）に基づく学修プランが遂行されていることが、取得科目ポイントを参照しつつ言及されなければならない。また、学修状況は、次の 2 種類の学修エビデンスによって裏付けられる必要がある。

(ア) 学修ノート、研究レポート、論文原稿などの、学修過程において作成した資料。

(イ) 各月の学修状況を要約した学生ポートフォリオ。

- 自己評価書は最終試験時において、すべての達成項目について自己評価が「博士前期課程修了レベル」であり、そのことを達成度評価委員会により認定される必要がある。

5. 科目ポイント

以下のように、共通科目と専門科目により、所定の基準ポイントを各達成項目について取得することが望ましい。ポイントの計算は、別紙に示すポイント表に基づくものとする。ただし、達成度評価委員会が認める場合、ポイント表を変更することが可能である。

1) 専門科目におけるポイント

各専門科目について、単位数＝総ポイント数として、ポイントを割り振るものとする。ポイントの割り振りは、各分野・研究グループの状況を勘案しながら、専攻が決定する。成績が A+ または A の場合定められたポイント×1.2、B の場合定められたポイント×1.0、

Cの場合定められたポイント×0.8として計算するものとする。

2) 専攻共通科目におけるポイント

原則として専攻共通に定めるものとし、別紙ポイント表のようにポイントを設定する。成績がA+またはAの場合定められたポイント×1.2、Bの場合定められたポイント×1.0、Cの場合定められたポイント×0.8として計算するものとする。

3) 各達成項目に対する基準ポイント

共通科目と専門科目の取得ポイントを合計して、次のポイントを取得することが望ましい。

(ア) 専門基礎：	8ポイント
(イ) 関連分野基礎：	5ポイント
(ウ) 現実問題の知識：	6ポイント
(エ) 広い視野：	6ポイント
(オ) 問題設定から解決まで：	4ポイント
(カ) プレゼン・コミュニケーション能力：	6ポイント

4) 他研究科科目、他専攻科目、特別講義等のポイント

別紙ポイント表および大学院・研究科共通科目ポイント表に記載していないこれらの科目については、単位数＝総ポイント数とし、成績に対する1.2、1.0、0.8の重みづけも専門科目と同じとするが、達成項目に対するポイントの割り振りは、指導教員と相談の上、「他専攻・他研究科等の科目履修に係るポイント付与申請書」により理由を付して達成度評価委員会を通じて専攻長に申し出、専攻長が承認すれば、その科目単位取得をもって割り振った達成項目のポイントを加算することができるものとする。

6. 達成度評価と追加課題

達成度評価は最終試験以前に、専攻が定める時期に数回実施される。その際、科目取得或いは自己評価のみでは、最終試験において専攻の定める達成度に達しないことが見込まれる学生について、達成度評価委員会は指導教員を通じて追加課題等を課することができる。学生は追加課題等を実施・提出し、評価を改善させること、及び、その評価ポイントを増加させることができる。

7. 達成度評価における特別ポイント

ある学生について、特に評価すべき成果がある場合、指導教員からの申請書を達成度評価委員会で審査した上で専攻長は達成度評価においてその成果に見合ったポイントを追加することができる。

8. 達成度評価の利用

達成度評価におけるポイントは、学生の顕彰等に利用できる。

附則

1) 本申し合わせは2008年度入学生から適用するものとする。

2) 本申し合わせを変更の際は、リスク工学専攻教員会議の議を経て変更する。

2009年6月3日 リスク工学専攻教員会議 承認

2014年4月9日 リスク工学専攻教育会議 改正

博士後期課程における達成度評価に関する申合せ

1. 達成度評価委員会と達成度評価の実施・承認

1) 達成度評価委員会

達成度評価委員会は、以下に述べる達成度評価を実施する目的で、専攻によって設置され、学生毎に定められる。

2) 達成度評価の実施・承認

以下に述べる達成度評価は達成度評価委員会により実施され、専攻長が承認する手続きによって行われる。

3) 達成度評価委員会の構成

達成度評価委員長 1 名および委員 2～3 名から構成する。

2. 達成度評価の課程修了における位置づけ

達成度評価結果は、博士論文審査とともに行われる最終試験の一部として取り扱う。最終試験に合格するためには、原則として達成度評価結果がすべての項目について可とされる必要がある。

3. 達成度評価における可否の判定

可否の判定は第 4 項に示す自己評価書に対する専攻の評価結果によって行う。

4. 自己評価書と自己評価書に対する専攻の評価

1) 自己評価書は、科目取得では計りきれない勉学状況の達成度について、自己の修学状況をアピールするために学生自ら申告するものである。学修状況は、次の 2 種類の学修エビデンスによって裏付けられる必要がある。

(ア) 学修ノート、研究レポート、論文原稿などの、学修過程において作成した資料。

(イ) 各月の学修状況を要約した学生ポートフォリオ。(G-COE 履修生は省略可)

2) 自己評価書は最終試験時において、すべての達成項目について自己評価が「博士後期課程修了レベル」であり、そのことを達成度評価委員会により認定される必要がある。

5. 達成度評価と追加課題

達成度評価は最終試験以前に、専攻が定める時期に数回実施される。その際、科目取得あるいは自己評価のみでは、最終試験において専攻の定める達成度に達しないことが見込まれる学生について、達成度評価委員会は指導教員を通じて追加課題等を課することができる。学生は追加課題等を実施・提出し、その評価を改善させることができる。

6. 達成度評価の利用

達成度評価における結果は、学生の顕彰等に利用できる。

7. 早期修了プログラム履修者に対する専攻の達成度評価について

早期修了プログラム履修者については、本専攻が実施する達成度評価と、早期修了プログラムが実施する達成度評価とは整合性があるため、早期修了プログラムが実施する達成度評価をもって、本専攻全体で実施する達成度評価に代えることができるものとする。

8. 本申し合わせは 2008 年度入学生から適用するものとする。

9. 本申し合わせを変更の際は、リスク工学専攻教員会議の議を経て変更する。

附則

1) 本申し合わせは 2008 年度入学生から適用するものとする。

2) 本申し合わせを変更の際は、リスク工学専攻教員会議の議を経て変更する。

2009 年 6 月 3 日 リスク工学専攻教員会議 承認

自己評価書における達成度評価基準

2010年4月6日

リスク工学専攻教員会議承認

1. 自己評価書における博士前期課程の達成度評価について

各分野についてポイント表に示した科目取得の際、学修した内容とエビデンスを用いて、各達成度項目に対して、総合的に自己評価する。なお、自学自修により学修した内容を追加して良い。達成度が博士前期課程修了レベルであることの基準は、次の通りである。

- 1) 各科目について学修内容のエビデンスが存在すること。
- 2) 自己評価書において科目ポイントに基づく学修プランが遂行され、そのことが、自己評価書において、取得科目ポイントと基準ポイントを比較しつつ言及されていること。

なお、達成度の各項目について、異なる科目であっても関連する事項を総合して自己評価することが望ましい。

2. 自己評価書における博士後期課程の達成度評価について

達成度が博士後期課程修了レベルであることの基準は、達成度項目について異なる。

- 1) 「学術的成果」については、学位論文作成の基準として定める公表論文数を満たしていることを基準に判定する。
- 2) 「専門基礎」については、公表論文の件数を満たし、そのための専門基礎が備わっていることを基準に判定する。
- 3) 「関連分野基礎」については、当該項目の科目取得 1 単位以上あるいは主に後期特別研究と後期特別演習において、それに該当する学修のエビデンスをもとに申告する。科目を取得していない場合は、1 単位以上に相当する学修時間を必要とする。
- 4) 「広い視野」、「問題設定から解決まで」、「現実問題の知識」については、3)と同様に判定する。
- 5) 「プレゼン・コミュニケーション」については、当該項目の科目取得 1 単位以上を基準に判定する。または、それに相当する研究発表件数が3年間に3回以上あった場合に後期特別研究等における討論過程をもとに判定する。
- 6) 「国際的通用性」については、3年間に3回以上の外国語発表あるいはそれに相当する国際的経験をもとに判定する。
- 7) 3)～5)については、TA・RA 経験、グループ演習指導補助の経験、研究室における学生指導補助の経験を含めることができる。

リスク工学の教育目標と履修の方法

1. リスク工学の教育目標

今日我々を取り巻く情報ネットワークや巨大システムの及ぶ範囲が広がるにつれて、不確実性とその影響の大きさはますます増大している。リスク工学専攻は、多様なリスクを科学的・工学的な方法により解明できる高度な技術をもつ研究者の育成と社会で活躍できる人材の輩出を目指す。

すなわち、リスク解析・評価のための基礎理論や関連情報処理技術を習得していると同時に、リスクに関する現実の問題について豊富な知識と関心を持ち、これらの問題に対して広い視野と強いリーダーシップをもって、問題設定から工学的手段による解決までの一連のプロセスを理解し、プロジェクト運営能力を発揮して具体的な解決手段を考案・開発することができる人材の育成が、我々の目指す教育である。

この教育目標に従い、次の各項目が達成されるように履修指導を行う。

- (1) リスク解析・評価のための基礎理論を習得している。
- (2) リスク解析・評価に関連する情報処理技術を習得している。
- (3) リスク工学の対象である現実の問題について学習している。
- (4) リスク工学の対象を広い視野で捉えることができる。
- (5) リスクにかかわる問題について、問題設定から工学的手段による解決までのプロセスを理解し、具体的な解決手段を考案・開発することができる。
- (6) 研究チームや研究プロジェクトのなかで、役割分担を果たすことができ、必要に応じてリーダーシップをとることができる。

前期課程では、上記の項目について基本的要件を満たし、実社会で活躍できる人材の育成を目指している。後期課程では、上記項目(3)～(6)についてはより高度な水準の能力を兼ね備え、プレゼンテーション・コミュニケーション能力に優れた国際的な通用性の高い研究者・高度専門職業人レベルの人材の育成を目指している。

なお、アドミッションポリシーとして、前期・後期課程ともに、広くリスクに関心をもつ人材を求める。後期課程については、今日のリスクの多様性に鑑み、教育目標における項目1、2は、広範な諸分野のいずれかにおける不確実性や現実のリスク・セキュリティ・セイフティに関わる基礎や情報処理を意味することに注意する。

2. 教育目標と履修の方法

リスク工学専攻では、前述の6項目の教育目標を掲げています。一方、大学院博士前期課程において一般的な達成度項目として、**A. 専門基礎**、**B. 関連分野基礎**、**C. 現実問題の知識**、**D. 広い視野**、**E. 問題設定から解決まで**、**F. プレゼン・コミュニケーション能力**、の6種類が挙げられています。それでは、専攻に固有の教育目標と、一般的な達成度項目という異なる性質の目標が、具体的なカリキュラムの中でどのようにして同時に満たされていくのか、説明しましょう。このとき、主分野と関連分野の2つの概念が役に立ちます。

1) 目標 : A, C, D

主分野

主分野とは、大体において学生が所属する教育研究指導グループが属する分野で、リスク工学の場合、「トータルリスクマネジメント」、「サイバーリスク」、「都市リスク」、「環境・エネルギーリスク」の4分野のいずれかになります。このうち1つの主分野を選んだ場合、その分野の専門科目を一つの基準として8単位とり、あわせて前期特別研究Ⅰ、Ⅱを取得することによって、A. 専門基礎と教育目標の「(1) リスク解析・評価のための基礎理論を習得している」が満たされることになります。また、主分野の各専門科目では、C. 現実問題の知識、D. 広い視野、という側面ももっていますので、教育目標の「(3) リスク工学の対象である現実の問題について学習している」、「(4) リスク工学の対象を広い視野で捉えることができる」も同時にカバーされることになります。

関連分野

関連分野とは、学生が主分野と定めた分野以外の3分野ですが、これらのうちから8単位の専門科目を取得します。それによって、B. 関連分野基礎について習得すると同時に、関連分野からみた C. 現実問題の知識、D. 広い視野、という側面についても習得します。これによって、教育目標の C と D がカバーされます。関連分野科目の取得の仕方として、たとえば主分野を「トータルリスクマネジメント」とした場合、「サイバーリスク」に集中してとる方法と、他の3分野を満遍なくとる方法とがあります。前者の場合、一つの分野で深く「関連分野基礎」を身につけることを重視した選択となり、後者の場合、「広い視野」を重視した選択となります。

なお、部分的には関連分野に替えて、大学院共通科目や他専攻科目を取得することも可能ですが、達成度項目や専攻の教育目標とどのように関連しているかについて明確な視点を持ち、説明できるようにしておいて下さい。

2) 教育目標 : B, E, F

これまで、教育目標について、A, C, D について説明しました。他の B, E, F についてはどうでしょうか。「(2) リスク解析・評価に関連する情報処理技術を習得している」につい

ては、必修科目である、前期特別研究Ⅰ、Ⅱで習得します。また、シラバスに明記されているように、サイバーリスク分野等の講義科目でも、更に強化することができます。

教育目標の「(5) リスクにかかわる問題について、問題設定から工学的手段による解決までのプロセスを理解し、具体的解決手段を考案・開発することができる」については、達成度項目の E. 問題設定から解決まで、と深く関連していますので、必修科目の前期特別研究Ⅰ、Ⅱおよびグループ演習等で習得します。

また、教育目標の「(6) 研究チームや研究プロジェクトのなかで、役割分担を果たすことができ、必要に応じてリーダーシップをとることができる」については、必修科目のグループ演習がこの目標に特に重点を置いています。

このように、標準的履修方法をとれば、教育目標に挙げられた各項目と、6つの達成度項目は同時にカバーされるようになっています。

3) 各主分野における人材プロフィール

以下に、各主分野に関して、それぞれの関連分野から養成される人材としてのプロフィールを以下に明示します。

主分野：トータルリスクマネジメント分野

サイバーリスク	確率論をはじめとする不確実性理論や、統計学的方法によるデータ解析とシステム信頼性技術、人のリスク認知や意思決定理論など、リスクに関する基礎理論体系を学ぶことによりシステムのリスクをトータルに管理・制御しようとする立場に軸足を置き、関連分野として、情報・ネットワークセキュリティやリスク解析・評価の基盤となる情報処理技術に深い関心をもつ技術者
環境・エネルギーリスク	確率論をはじめとする不確実性理論や、統計学的方法によるデータ解析とシステム信頼性技術、人のリスク認知や意思決定理論など、リスクに関する基礎理論体系を学ぶことによりシステムのリスクをトータルに管理・制御しようとする立場に軸足を置き、関連分野として、地域の環境汚染と地球規模の環境問題、エネルギーシステムのリスク解析評価技術に深い関心をもつ技術者
都市リスク	確率論をはじめとする不確実性理論や、統計学的方法によるデータ解析とシステム信頼性技術、人のリスク認知や意思決定理論など、リスクに関する基礎理論体系を学ぶことによりシステムのリスクをトータルに管理・制御しようとする立場に軸足を置き、関連分野として、地震や風水害等の自然災害、火災、事故、犯罪といった都市に存在するリスクに関する総合的な管理・制御技術に深い関心をもつ技術者
各分野を幅広く選択	確率論をはじめとする不確実性理論や、統計学的方法によるデータ解析とシステム信頼性技術、人のリスク認知や意思決定理論など、リスクに関する基礎理論体系を学ぶことによりシステムのリスクをトータルに管理・制御しようとする立場に軸足を置き、サイバーリスク、都市リスク、環境・エネルギーリスクなどの関連分野に広い関心をもつ技術者

主分野：サイバーリスク分野

<p>トータルリスク マネジメント</p>	<p>情報セキュリティ・ネットワークセキュリティやそれらを包含する現代情報理論など、サイバーリスクに関する広範な理論体系を学ぶことで、情報セキュリティをはじめとする情報処理技術面での対策を担おうとする立場に軸足を置き、関連分野として、確率論をはじめとする不確実性理論や、統計学的方法によるデータ解析とシステム信頼性技術、人のリスク認知や意思決定理論など、リスクに関する基礎理論体系に深い関心をもつ技術者</p>
<p>環境・エネルギー リスク</p>	<p>情報セキュリティ・ネットワークセキュリティやそれらを包含する現代情報理論など、サイバーリスクに関する広範な理論体系を学ぶことで、情報セキュリティをはじめとする情報処理技術面での対策を担おうとする立場に軸足を置き、関連分野として、地域の環境汚染と地球規模の環境問題、エネルギーシステムのリスク解析評価技術に深い関心をもつ技術者</p>
<p>都市リスク</p>	<p>情報セキュリティ・ネットワークセキュリティやそれらを包含する現代情報理論など、サイバーリスクに関する広範な理論体系を学ぶことで、情報セキュリティをはじめとする情報処理技術面での対策を担おうとする立場に軸足を置き、関連分野として、地震や風水害等の自然災害、火災、事故、犯罪といった都市に存在するリスクに関する総合的な管理・制御技術に深い関心をもつ技術者</p>
<p>各分野を幅広く 選択</p>	<p>情報セキュリティ・ネットワークセキュリティやそれらを包含する現代情報理論など、サイバーリスクに関する広範な理論体系を学ぶことで、情報セキュリティをはじめとする情報処理技術面での対策を担おうとする立場に軸足を置き、トータルリスクマネジメント、環境・エネルギー、都市・防災などの関連分野に広い関心をもつ技術者</p>

主分野：環境・エネルギーリスク分野

<p>トータルリスク マネジメント</p>	<p>環境・エネルギー問題を資源、技術、経済など学際的な立場から体系化した環境・エネルギー学を理解し、エネルギーシステムに関わる供給リスクおよび地球温暖化や大気・水質汚染などの環境リスクを管理・制御しようとする立場に軸足を置き、関連分野として、確率論をはじめとする不確実性理論や、統計学的方法によるデータ解析とシステム信頼性技術、人のリスク認知や意思決定理論など、リスクに関する基礎理論体系に深い関心をもつ技術者</p>
<p>サイバーリスク</p>	<p>環境・エネルギー問題を資源、技術、経済など学際的な立場から体系化した環境・エネルギー学を理解し、エネルギーシステムに関わる供給リスクおよび地球温暖化や大気・水質汚染などの環境リスクを管理・制御しようとする立場に軸足を置き、関連分野として、情報・ネットワークセキュリティやリスク解析・評価の基盤となる情報処理技術に深い関心をもつ技術者</p>
<p>都市リスク</p>	<p>環境・エネルギー問題を資源、技術、経済など学際的な立場から体系化した環境・エネルギー学を理解し、エネルギーシステムに関わる供給リスクおよび地球温暖化や大気・水質汚染などの環境リスクを管理・制御しようとする立場に軸足を置き、関連分野として、地震や風水害等の自然災害、火災、事故、犯罪といった都市に存在するリスクに関する総合的な管理・制御技術に深い関心をもつ技術者</p>
<p>各分野を幅広く 選択</p>	<p>環境・エネルギー問題を資源、技術、経済など学際的な立場から体系化した環境・エネルギー学を理解し、エネルギーシステムに関わる供給リスクおよび地球温暖化や大気・水質汚染などの環境リスクを管理・制御しようとする立場に軸足を置き、トータルリスクマネジメント、サイバーリスク、都市リスクなどの関連分野に広い関心をもつ技術者</p>

主分野：都市リスク分野

<p>トータルリスク マネジメント</p>	<p>都市の空間構造の解析手法やリスク概念を考慮した計画理論等に基づき、地震や風水害等の自然災害、火災、事故、犯罪といった都市に存在するリスクを総合的に管理・制御しようとする立場（都市リスクの認知、評価、分析、リスクコミュニケーション）に軸足を置き、関連分野として、確率論をはじめとする不確実性理論や、統計学的方法によるデータ解析とシステム信頼性技術、人のリスク認知や意思決定理論など、リスクに関する基礎理論体系に深い関心をもつ技術者</p>
<p>サイバーリスク</p>	<p>都市の空間構造の解析手法やリスク概念を考慮した計画理論等に基づき、地震や風水害等の自然災害、火災、事故、犯罪といった都市に存在するリスクを総合的に管理・制御しようとする立場（都市リスクの認知、評価、分析、リスクコミュニケーション）に軸足を置き、関連分野として、情報・ネットワークセキュリティやリスク解析・評価の基盤となる情報処理技術に深い関心をもつ技術者</p>
<p>環境・エネルギー</p>	<p>都市の空間構造の解析手法やリスク概念を考慮した計画理論等に基づき、地震や風水害等の自然災害、火災、事故、犯罪といった都市に存在するリスクを総合的に管理・制御しようとする立場（都市リスクの認知、評価、分析、リスクコミュニケーション）に軸足を置き、関連分野として、地域の環境汚染と地球規模の環境問題、エネルギーシステムのリスク解析評価技術に深い関心をもつ技術者</p>
<p>各分野を幅広く 選択</p>	<p>都市の空間構造の解析手法やリスク概念を考慮した計画理論等に基づき、地震や風水害等の自然災害、火災、事故、犯罪といった都市に存在するリスクを総合的に管理・制御しようとする立場（都市リスクの認知、評価、分析、リスクコミュニケーション）に軸足を置き、トータルリスクマネジメント、サイバーリスク、環境・エネルギーリスクなどの関連分野に広い関心をもつ技術者</p>

リスク工学専攻オリエンテーション達成度評価説明資料

(博士前期課程用)

2010年4月6日

リスク工学専攻教員会議承認

1. 達成度評価の目的

リスク工学専攻では、2008年度から専攻における教育目標の「達成度評価」を実施することになりました。達成度評価システムは、専攻の教育目標と、大学院における一般的な教育目標（別紙に述べる6項目）を同時に満足させる教育プロセスの評価システムです。本年度博士前期課程に入学された皆様にはこの達成度評価システムを理解頂き、各自の学修の進行度チェックに役立てて頂きたいと存じます。

2. 課程修了と達成度評価

大学院便覧には、課程修了に必要な条件が記載されていますが、そこに、「最終試験」という項目があります。「達成度評価に関する申合せ」に記載されていますが、リスク工学専攻では、最終試験において、「達成度評価項目がすべて課程修了に必要なレベルに達していること」を確認する、とされています。従って、修了には、次の3つの条件を満たす必要があります。

- 1) 所定の単位取得
- 2) 修士論文の完成と修士論文審査への合格
- 3) 最終試験において、達成度評価項目がすべて課程修了に必要なレベルに達していること

3. 達成度評価について

「達成度評価に関する申合せ」および「自己評価書における達成度評価基準」に示されていますが、博士前期課程は達成度評価シート（自己評価書）で達成度評価がなされます。自己評価書は、科目取得だけでは計りきれない勉学状況の達成度について、自分で申告するものです。自分の勉学状況をアピールするように記載願います。1年次2学期末、1年次年度末、2年次2学期末、2年次年度末の計4回、別紙サンプルのような達成度評価シート（自己評価書）を提出し、専攻教員による指導を受けて下さい。

4. 学修エビデンスと科目ポイント

自己評価書を支えるものとして、自己評価書の裏付けとなる学修エビデンスと、各達成度項目がどれだけ満たされているかを定量的に測るための科目ポイントの二つの柱があります。

- 1) 学修エビデンスは自己評価書を裏付けるもので、次の2種類からなります。

- (ア) 学修過程において作成した資料。例えば、前期特別研究やグループ演習・インターンシップ等において作成した学修ノート、研究室のゼミのための研究レポート、学会や研究会のために準備した論文原稿などです。必要に応じて、自己評価書で参照して下さい。これらの資料は、自己評価書の裏付けとして提出を求められることがありますので、各自保存しておいてください。
- (イ) 各月の学生ポートフォリオ。各月の学修状況の要約です。別紙にサンプルが示されています。このポートフォリオを参照しながら、毎回の自己評価書を作成して下さい。

- 2) 科目ポイントは単位取得によって得られるポイントです。これは、各研究分野により異なりますが、別紙ポイント表サンプルの各分野の表を参考にして下さい。ポイント表の履修モデルに従って勉学し、必要単位を取得することにより、バランスのいいポイントを獲得できるようになっています。この科目ポイントに基づいて学修プランが遂行され、自己評価書の中で学修プランの遂行状況が、取得科目ポイントを参照しつつ言及されている必要があります。

5. 注意事項

以上の説明を読むと、自己評価書は煩雑な作業のように見えるかも知れませんが、慣れてくると、短時間のうちに作成できるようになり、それによる学修プロセスをチェックできるというメリットのほうを感じるようになるでしょう。また、不明な点は、教員だけでなく、各分野の担当TAに相談して下さい。諸資料もTAを通じて提出していただきます。

6. 相談窓口

TAや指導教員に相談するだけで問題が片付かない場合の相談窓口は以下の通りです。

- 1) 学年担当
- 2) 大学院教育改革主担当教員
- 3) リスク工学専攻長

7. 達成度評価システムの適用について

達成度評価システムは、2008年度入学生から適用されます。

8. 2007年度以前の入学生に対する達成度評価について（参考）

2007年度以前の入学生については、最終試験時における達成度評価は行いません。このように、達成度評価は課程修了の要件ではありませんが、上記の目的を理解し、2008年度以降の入学生に準じて、達成度自己評価書を作成し、提出されることを希望します。

リスク工学専攻オリエンテーション達成度評価説明資料

(博士後期課程用)

2010年4月6日
リスク工学専攻教員会議承認

1. 達成度評価の目的

リスク工学専攻では、2008年度から専攻における教育目標の「達成度評価」を実施することになりました。達成度評価システムは、専攻の教育目標と、大学院における一般的な教育目標（別紙に述べる8項目）を同時に満足させる教育プロセスの評価システムです。本年度博士後期課程に入学された皆様にはこの達成度評価システムを理解頂き、各自の学修の進行度チェックに役立てて頂きたいと存じます。

2. 課程修了と達成度評価

大学院便覧には、課程修了に必要な条件が記載されていますが、そこに、「最終試験」という項目があります。「達成度評価に関する申合せ」に記載されていますが、リスク工学専攻では、最終試験において、「達成度評価項目がすべて課程修了に必要なレベルに達していること」を確認するとされています。従って、修了には、次の3つの条件を満たす必要があります。

- 1) 所定の単位取得
- 2) 博士論文の完成と博士論文審査への合格
- 3) 最終試験において、達成度評価項目がすべて課程修了に必要なレベルに達していること

3. 達成度評価について

「博士後期課程における達成度評価に関する申合せ」および「自己評価書における達成度評価基準」に示されていますが、博士後期課程は前期課程と異なり、講義科目数が少なく、達成度は特別研究等のなかで進歩するものですから、前期課程のような「単位取得によるポイント数の参照」は考慮せず、達成度評価シート（自己評価書）と教員による評価のみによって達成度評価がなされます。自己評価書は、科目取得では計りきれない勉学状況の達成度について、自分で申告するものです。自分の勉学状況をアピールするように記載願います。各年次の2学期末および年度末に別紙サンプルのような達成度評価シート（自己評価書）を提出し、専攻教員による指導を受けて下さい。

4. 学修エビデンス

学修エビデンスは自己評価書を裏付けるもので、次の2種類からなります。

- 1) 学修過程において作成した資料。例えば、後期特別研究や後期特別演習・後期プロジェクト研究等において作成した学修ノート、研究室のゼミのための研究レポート、学会や研究会のために準備した論文原稿などです。必要に応じて、自己評価書で参照して下さい。これらの資料は、自己評価書の裏付けとして提出を求められることがありますので、各自保存してお

いてください。

- 2) 各月の学生ポートフォリオ：各月における学修内容の要約。別紙にサンプルが示されています。各月ポートフォリオを主に参照しながら、毎回の自己評価書を作成して下さい。

5. 注意事項

以上の説明を読むと、自己評価書は煩雑な作業のように見えるかも知れませんが、慣れてくると、短時間のうちに作成できるようになり、それによる学修プロセスをチェックできるというメリットのほうを感じるようになるでしょう。また、不明な点は、教員だけでなく、各分野の担当TAに相談して下さい。諸資料もTAを通じて提出していただきます。

6. 相談窓口

TAや指導教員に相談するだけで問題が片付かない場合の相談窓口は以下の通りです。

- 1) 大学院教育改革担当教員
- 2) リスク工学専攻長

7. 早期修了プログラム履修者に対する専攻の達成度評価について

早期修了プログラム履修者は、当該プログラムが定める達成度評価がなされます。本専攻が実施する達成度評価と、早期修了プログラムが実施する達成度評価とは整合性がありますので、早期修了プログラムが実施する達成度評価をもって、本専攻全体で実施する達成度評価に代えることができます。この際、資料を二重に作成する必要は原則としてありません。

8. Global COE プログラム履修生に対する達成度評価について

Global COE プログラム履修生については、Global COE プログラムの作業負担に鑑み、学生ポートフォリオの作成は免除します。ただし、達成度評価シート（自己評価書）の作成と、学修エビデンスの提出は必要です。この場合の学修エビデンスは、Global COE プログラムにおけるものも含まれます。

9. 達成度評価システムの適用について

達成度評価システムは、2008年度入学生から適用されます。

10. 2007年度以前の入学生に対する達成度評価について（参考）

2007年度以前の入学生については、最終試験時における達成度評価は行いません。このように、達成度評価は課程修了の要件ではありませんが、上記の目的を理解し、2008年度以降入学生に準じて、達成度自己評価書を作成し、提出されることを希望します。